



義認、聖化、そして義

目次

贖いの計画	5
贖いのわざ	10
神の律法	15
キリストの人性	20
キリストの神性	26
キリスト—わたしたちの希望と義認と義	31
義認は罪ののろいから救う	36
行いのない信仰による義認	41
義とする信仰	47
ちりに伏させられる人間の栄光	52
神と共に働く	57
聖化	62
キリストの義に覆われる	67

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部 (P.O.Box 7240 Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.88, No.3

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 26-5059

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト : Illustrations:
Sermonview on front cover;
RF123 on p.46, and back
cover; MapResources on pp.
4, 46, and back cover.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

「主はその大いなる憐れみのうちに、ワゴナー長老とジョーンズ長老を通して、最も尊いメッセージをご自分の民にお与えになった。このメッセージは、もっと前面に上げられた救い主、全世界の罪のための犠牲を世の前にを提示するためであった。それは保証人を信じる信仰を通しての義認を提示した。それは神のすべての戒めへの従順のうちに表されたキリストの義を受けるように人々を招いた。多くの人はイエスを見失っていた。彼らは自分たちの目をこのお方の神性、このお方の功績、そして人類家族に対するこのお方の変わらない愛に目を向ける必要があった。すべての力はこのお方の手中に与えられている。それはこのお方がご自身の義という限りなく尊い賜物を無力な人間の代理人に与えることによって、豊かな賜物を人類に施すことができるためである。これは神が世に与えるべきだと命じられたメッセージである。それは大いなる叫びで宣布され、大規模に聖霊の注ぎを伴うべき第三天使のメッセージである。」(牧師への証 91, 92)

「キリストわれらの義」のメッセージを大いなる力をもって宣布するために召された民として、わたしたちがまさに何がこのメッセージであるかとその実際の適用を理解することは重要です。このメッセージには、多くの局面がありますが、この安息日聖書教科では義認、聖化、そして義の主題を復習していきます。

パウロは福音の奥義が「あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである 栄光の望みである」と宣言しました(コロサイ 1:27)。彼はさらにピリピ人に「キリスト・イエスにあっただいしているのと同じ思い(キリストのうちにある思い)をあなたがたの間でも互に生かしなさい」と訓告しました(ピリピ 2:5)。キリストの思いとは、「わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げること」にほかなりませんでした(ヨハネ 4:34)。神のみわざとは、男女を創造された当初の神のみかたちに回復することにほかなりません。これは、「すべて信じる者に救いを得させる神の力である」(ローマ 1:16)福音と次の約束を信じる信仰によってのみ可能です。「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ 1:12)。

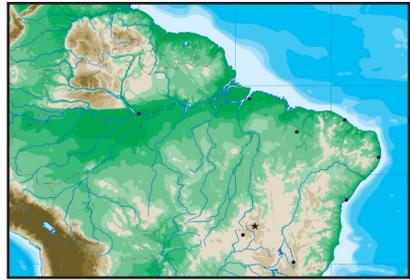
キリストを通しての義認、聖化、そして義のメッセージを、わたしたちがみな単に理論としてだけでなく、実際の生きた経験として理解することができるようにというのが、わたしたちの心からの祈りです。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

ブラジル ベレンの会議場のために

信仰とキリストにある祝福された望みにおける親愛なる兄弟姉妹の皆さん、「あなたのパンを水の上に投げよ、多くの日の後、あなたはそれを得るからである」(伝道の書 11:1)。ブラジルのアマゾン地域の信徒たちのために、この真理の伝達手



段-安息日聖書教科-を通してみなさんにこの地域での第三天使のメッセージの働きの前進に関連して、皆さんの惜しみない献金をお願いすることになりました。

アマゾン・フィールドはブラジル北部と北東の四つの大きな州から成り立っており、およそ 200 万平方キロメートルの地域に 1700 万人の人口が住んでいます。この人口のほとんどは大アマゾン川とその支流のほとりに住んでおり、もう一つのかんりの人口がマラニャオとピアウイ州の内陸部に住んでいます。これらの要因をすべて考慮しますと、教会員と求道者に伝道し、伝達するためには、相当の努力とかなりの費用がかかることがおわかりになるでしょう。

この地域における伝道活動のための計画を促す別の要因として、伝道しなければならない別の国ターガイアナ、フランス領ガイアナ、そしてスリナムに方策上近いことがあります。

わたしたちの願いはこの働きにもっと協力することですが、預言者イザヤが 54 章 2 節に記したとおり、まずわたしたち自身が確立する必要があります。「あなたの天幕の場所を広くし、あなたの住まいの幕を張りひろげ、惜しむことなく、あなたの綱を長くし、あなたの杭を強固にせよ。」自発的な伝道者を、特に青年たちの間で整え、強固にするために、わたしたちはパラの首都ベレンにあるアマゾン・フィールドの今の本部からおよそ 30 キロメートル離れたところに美しい一角の土地を購入しました。今、わたしたちは新しい建物のインフラと工事に投資しなければなりません。

わたしたちはすべての安息日学校の生徒に、このプロジェクトにおいてわたしたちを助けて下さるようお願いいたします。みなさんが惜しみなく神様のみ事業に献金するときに、神様がみなさんを豊かに報いて下さいますように。「物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される」(箴言 11:25)。

北ブラジル連合の皆さんの兄弟姉妹より

贖いの計画

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

「人の救いという栄光に満ちた計画は、父なる神の無限の愛を通してもたらされた。この神聖な計画において、墮落した人類に対する神の愛のもっとも驚くべき現れが見られる。」(教会への証 2巻 200)

推奨文献：人類のあけぼの上巻 53-64

日曜日

12月30日

1. はじめに

- a. 創造当初におけるアダムとエバの性質を、どのように聖書は単純に説明していますか。彼らは何に楽しみを見いだしていましたか(創世記 1:26, 27)。

「人間は、外観においても、品性においても、神のかたちを保っているはずであった。キリストだけが、天の父の「本質の真の姿」ではあるが、人間は、神に似せて造られたのである(ヘブル 1:3)。彼の性質は、神のみ旨と調和していた。人間の知力は、神の事物を理解することができた。彼の愛情は清く、食欲や情欲は理性の支配のもとにあった。彼は、神のかたちをしていて、神のみ旨に完全に服従していたので、清く、幸福であった。」(人類のあけぼの上巻 20)

- b. はじめに全宇宙は、どのような状態でしたか(創世記 1:31; ヨブ 38:7)。

「造られた者がすべて、神に対する愛の忠誠を了承しているうちは、神の造られた全宇宙に完全な調和があった。創造主のみこころをなすことが、天の軍勢の喜びであった。神の栄光を反映することと神への賛美が、彼らの楽しみであった。そして、彼らが神を最高に愛していた間は、互いの中の愛も信頼と無我の精神に満ちていた。そこには、天の調和を破るものは何一つなかった。」(同上 3)

2. 墮落の結果

- a. 人類と自然に、どのような罪の結果が生じましたか。神の律法の違反はこの世に何をもたらしましたか（創世記 3:17-19; ローマ 5:12）。

「神は初め、人を全くきよく幸福なものにお造りになった。そして、この美しい地球が創造主のみ手に造られた時には、一点の衰えのきざしものろい影もなかった。愛のおきてである神の律法を人が犯したために、死と悩みが生じたのである。」（キリストへの道 2）

「神のみこころの一点をあえて無視することによって、わたしたちの最初の祖先は、この世界にわざわいの水門を開いてしまった。そして彼らの例にならう者はみな、同様の結果を刈り取る。神の愛がその律法の一つ一つの戒めの基礎である。そして戒めを離れる者は、自分で自分の不幸と破滅をもたらしているのである。」（祝福の山 65）

- b. 人類も地も、だれの支配下に陥りましたか。キリストはこの力について、どのように言及されましたか（ローマ 6:16; ルカ 4:5, 6; ヨハネ 14:30）。

「罪のために、人間だけでなく、地も悪者の支配下に陥った。そして、地も贖罪の計画によって、回復されなければならなかった。アダムは、創造されたときに、地の統治者としておかれた。ところが、誘惑に負けたためにサタンの支配下におかれた。「おおよそ、人は征服者の奴隷となるものである」（ペテロ第二 2:19）。人間がサタンの捕虜になったとき、彼の統治権は、征服者の手に移った。こうして、サタンは「この世の神」（コリント第二 4:4）となった。彼は、初めアダムに与えられた地の統治権を彼から奪った。」（人類のあけぼの上巻 59）

「世の重大な形勢は、光の君と暗黒の王国の指導者との争闘にかかっていた。人を罪に誘惑してから、サタンはこの地上を自分のものとして主張し、自らこの世の君と称した。彼は人類の父母を自分の性質に従わせたので、ここに自分の王国を築こうと考えた。彼は、人類が彼を自分たちの君主にえらんだと宣言した。人類を支配することによって、彼はこの世の主権を保った。キリストはサタンの主張が誤りであることを証明するためにおいでになった。人の子として、キリストは神に対する忠誠を保たれるのであった。そのことによって、サタンは人類を完全に支配していないこと、世に対する彼の主張はうそであることが示されるのであった。サタンの権力から救われたいと望む者はみな自由にされるのであった。罪のためにアダムが失った主権は回復されるのであった。」（各時代の希望上巻 120, 121）

3. 罪の結果

- a. 墮落後、男女にどのような変化がもたらされましたか。人類はどのような嘆かわしい状態から逃れなければなりませんでしたか(ヨハネ 8:44 (上句) ; エペソ 2:1-3)。

「神は、ご自分のかたちにかたどって人を創造された。神は、人間にすぐれた性質をお授けになった。人間の心は、よく均衡がとれていて、そのすべての能力には調和があった。しかし、墮落とその結果によって、これらの賜物はゆがめられてしまった。罪は、人間の中の神のかたちを、ほとんど消し去った。」(人類のあけぼの下巻 258)

「人間は、神の律法を犯したときに、その性質は邪悪となり、サタンに敵対するのではなく、協調するようになった。罪人と罪の張本人との間には、当然、なんの恨み(敵意)もない。両方とも、背信によって、邪悪になった。」(各時代の争闘下巻 243, 244)

- b. 神の再生の憐れみがなければ、今日でさえ、どのような人類の生来の傾向が引き続き存在することになりますか(詩篇 51:5; エレミヤ 17:9; ローマ 3:12; コリント第二 4:4)。

「人は罪を通して神の命から切り離された。彼の魂は、罪の創始者であるサタンの陰謀を通して麻痺した。自分自身では、罪を感じることもできず、神性を感謝し、自分のものとすることもできない。自分の手の届くところにそれがおかれたとしても、そのうちに彼の生来の心が望むものは何もない。サタンの惑わしの力が彼の上に及んでいる。悪魔がほのめかすことのできるあらゆる巧妙な口実が、すべての良い衝動を妨げるために彼の思いに提示される。神から彼に与えられたすべての機能と力は、神聖な恩人に敵対する武器として用いられてきた。このために、神は人を愛しておられるにもかかわらず、ご自分が与えたいと望んでおられる賜物と祝福を、人に安全に与えることがおできにならないのである。」(レクテッド・メッセージ 1巻 340)

「断固としてキリストに従う決心をしていないものは、サタンのしもべである。生まれ変わっていない者の心には、罪を愛する思いがあり、罪を抱いてその言いわけをする傾向がある。」(各時代の争闘下巻 247, 248)

「善悪を知る木の実を食べた結果は、すべての人間の経験にあらわれている。人の性質には、悪への傾向、すなわち自力だけでは抵抗し得ない一つの力が働いている。」(教育 21)

4. 神の愛の証拠

- a. 神格のどのような特徴が、墮落した人類の必要に応えましたか。キリストがご自身を犠牲として捧げる動機となったものは何ですか（ヨハネ第一 4:9, 10）。

「天の栄光に満ちた司令官であられる神のみ子は、墮落した人類をあわれまれた。彼の心は、失われた世界のわざわいをごらんになって、限りないあわれみの情を感じられた。」（人類のあけぼの上巻 53）

「キリストの生涯はこうした〔ご自分を全く捨てて人のために尽くす〕性質のものであったが、これこそ神のご性質である。キリストのうちにあらわされ、人類の上にあふれ出た天からの愛の流れは、天の父のみ心から出たものである。優しい思いやり深い救い主イエスは「肉において現れ」（テモテ第一 3:16）た神であった。……

しかし、この〔神の御子の〕大きな犠牲が払われたために、天の神のみ心に人に対する愛の気持をおこさせたのでもなければ、救いたいとの考えを生じさせたのでもない。否、そうではなく『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛』（ヨハネ 3:16）されたのである。神は、その大きななだめのそなえもののゆえに、わたしたちを愛されたのではなく、わたしたちを愛するがゆえに、なだめのそなえものを与えて下さったのである。キリストは罪に落ちた世界に神の限りない愛をそそがれる仲介者であられた」（キリストへの道 7～9）

- b. 救いの計画が、罪深い人類のために立てられたのは、いつでしたか。神の統治のどの原則が、この計画によって表されていますか（黙示録 13:8; ローマ 16:25; 詩篇 89:14）。

「われわれをあがなう計画は、あとで考え出されたもの、すなわちアダムの墮落後に定められた計画ではなかった。それは、『長き世々にわたって、かくされていた奥義』のあらわれであった（ローマ 16:25）。それは永遠の昔から神の統治の根本となってきた原則のあらわれであった。初めから、神とキリストは、サタンの背信と、この反逆者の欺瞞的な力によって人類が墮落することを知っておられた。神は罪が存在するように定められたのではなく、その存在を予見し、その恐るべき危機に応ずる備えをされたのであった。」（各時代の希望上巻 5）

「罪人を救うために、父とみ子が限りない愛に迫られて払われた犠牲—この贖いの計画以外に方法はなかった—は、公義とあわれみが神の律法と統治の基礎であることを全宇宙の前に証明している。」（各時代の争闘下巻 241）

5. 贖いの計画の目的

a. 贖いの計画を通じて、神のご目的は何ですか(ヨハネ第一 3:1; ローマ 8:15-17)。

「〔ヨハネ第一 3:1 引用〕。人はなんと尊い価値をもっていることであろう。罪を犯して人の子らは悪魔の奴隷となったが、キリストのあがないの犠牲を信じることによって、アダムの子らはまた神の子となることができるのである。キリストは人性をおとりになって人類を引き上げてくださった。罪に落ちた人類は、キリストにつながってはじめて『神の子』という、その名にふさわしい尊い者となれるのである。」(キリストへの道 11)

b. 罪が二度と生じないために、救いの計画は、すべての全宇宙の知的存在者の思いから、どの疑いを完全に排除しなければなりませんか(ナホム 1:9; ルカ 24:25, 26; エペソ 1:10)。

「物事を安全という永遠の基礎の上におくことが神の御目的だったので、天の会議では、サタンがその統治制度の基礎となっている原則を発揮する時間を与えるべきだということが決定された。サタンは自分の原則が神の原則よりもすぐれていると主張していた。そこでサタンの原則が天の宇宙に知れ渡るように、それを発揮させる時間が与えられた。」(各時代の希望下巻 283)

個人的な復習問題

1. はじめに、神の創造全体は、何に特徴づけられていましたか。
2. 状態が変わったこと以外に、実際、アダムとエバが神に従わなかったときに、何が起こりましたか。
3. 罪の結果に反して働くために、どのような神の介入が必要となりましたか。
4. 神格の真の性質について、救いの計画は何を十分に表しますか
5. すべての思いから疑いや何かほかの選択肢を考える可能性を取り除くために、救いの計画は何を確固として打ち立てなければなりませんか。

贖いのわざ

「さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。」(ペテロ第一 2:24)

「罪はその恐ろしいのろいと共に、世を墮落させ、人のうちにある神のかたちをほとんど消してしまった。しかし、驚くべき憐れみ深い神の愛は、人類をその望みのない墮落した状態で完全に滅びるままに捨てておかれなかった。このお方はご自分の非常に愛された御子を彼らの救いのためにお与えになった。」(サインズ・オブ・タイムズ 1878年8月1日)

推奨文献：各時代の希望上巻 4-13

日曜日

1月6日

1. 要求を満たすために

- a. 罪を犯す刑罰は何ですか。また、違反者は、どのようにしてのみ逃れることができましたか。ご自身に、わたしたちの違反を引き受けられたのはどなたですか(創世記 2:17; ローマ 7:10, 11; ペテロ第一 2:24)。

「人類を永遠の死から救うために、神の御子が自らすすんで不従順の刑罰を負って下さった。天の君の屈辱によってのみ、不名誉が取り除かれ、正義が満足し、人が不従順によって失ったものへと回復されることができたのであった。」(セレクトド・メッセージ 1巻 308)

- b. 救いの計画を実現させるために、神の御子をはじめに何をなさらなければなりませんでしたか。キリストを与えることによって、どなたも犠牲を払われましたか(テモテ第一 3:16; ヨハネ 3:16)。

「神は、最愛のみ子、すなわち、ご自分と一つであるかたを与えて、罪の刑罰を負わせられたのである。こうして、彼らが回復されて、神の恵みに浴し、エデンの家庭に帰ることができる道が備えられた。キリストは、人間を贖い、この世界をサタンの手から救い出そうとされた。天で起こった大争闘は、サタンが自分のものと主張したこの世界そのものを戦場として、勝敗を決することになった。」(人類のあげばの上巻 62)

2. 完全な従順—贖いの必須条件

- a. どのような種類の従順が、キリストがわたしたちを贖うことを可能としますか（ピリピ 2:8; ヘブル 5:8, 9; ローマ 5:12, 18）。

「墮落した人類の代表者として、キリストはアダムがつかずいて墮落したのと同じ道を通られた。神の律法への完全な従順の生活によって、キリストは人をアダムの不面目な墮落の罰から贖われた。人は神の律法を犯した。神への忠誠に立ち返る者だけに、また自分たちが犯した律法に従う者だけに、キリストの血は効用がある。キリストは決して罪の共犯者となれることはない。律法の罰を負い、彼は罪人に二度目の試験、再度の機会をお与えになる。彼はそれにより罪人が神の恩寵を取り戻すことができる道を開かれる。キリストは人の過去の罪の罰を負い、人にご自分の義をお与えになることにより、人が神の聖なる律法を守ることを可能にされる。」（バプル・コメンタリ [E. G. 初作コメン] 6 巻 1092）

「〔キリストの〕全生涯は、十字架におけるこのお方の死の序章であった。このお方のご品性は、すべての神の戒めへの従順の生涯であり、また地上における全人類のための模範となるのであった。このお方の生涯は、人性のうちに律法を生きることであった。アダムがその律法を犯した。しかし、キリストは、律法への完全な従順によって、アダムの不名誉な失敗と墮落を贖われた。」（クリスチャン教育の基礎 382）

- b. 何が、キリストに敵の手中から虜を奪う権利を与えましたか（ヨハネ 15:10（下旬）；ペテロ第一 2:24）。

「キリストは、敵の手中から虜を奪うどのような権利を得られたのであろうか—天の王国を統治している正義の原則を満足させる犠牲を払われた権利である。このお方は失われた人類の贖い主として、狡猾な敵に勝利するために、そして、正しいことへの揺るがない忠誠によって、ご自分を救い主として受け入れるすべての人を救うために、この地上に来られた。カルバリーの十字架上で、このお方は人類の贖いの代価を支払われた。そしてこのようにしてこのお方は虚言によって神の統治に敵対して謀り、人の墮落を生じさせ、こうして神の栄光に満ちたとこしえの王国の忠実な臣民と呼ばれる一切の権利を失わせた大欺瞞者の手中から、虜を奪う権利を得られたのである。」（セクレット・メッセージ 1 巻 309）

3. 人の子は完全なご品性を発達させられた

- a. キリストは男女のうちに神のかたちを回復するためにどのような準備に取りかかられましたか（ヘブル 10:5-7（詩篇 40:6-8 参照））。

「罪を知らないお方がわたしたちのために罪とされた。わたしたちの罪のゆえに、このお方はこの恐るべき有罪の重みをもって、食欲に関するテスト、また世と誉れへの愛着、僭越へと導く見せびらかしの誇りに関するテストに耐えて下さった。キリストは人類のために、これらの主要な誘惑に耐え、打ち勝って下さり、人類のために義なる品性を築いて下さった。なぜなら、このお方は人が自分でそれをする事ができないことをご存じであったからである。」（教会への証 3 巻 372）

「この〔道徳律の〕律法の違反によって、罪がこの世にもたらされた。そして罪と共に死がおとずれた。キリストは人間の罪のためのあがないの供え物となられた。このお方は人間の罪深さの代わりにご自分の品性の完全さを差し出された。このお方は不従順ののろいをご自分の身に負われた。」（パウル・コム列 [E. G. コム列] 6, p. 1096）

- b. どのような方法において、キリストはご自分の御父に栄光を帰されましたか。またそれはなぜですか（ヨハネ 17:3, 4（上旬）；14:7-11）。

「暴力の行使は神の統治の原則に反する。神は愛の奉仕だけを望まれる。愛を命令することはできない。暴力や権威によって愛を手に入れることはできない。愛は愛によってのみめざまげさせられる。神を知れば神を愛するようになる。神のご品性がサタンの品性と対照的に示されねばならない。この働きは全宇宙でただひとりのおかただけができた。神の愛の高さと深さを知っておられるおかただけが、その愛を知らせることがおできになった。」（各時代の希望上巻 4, 5）

「キリストはこのように愛の神、憐れみと優しさと同情に満ちたお方として神を表すために来られた。……ピリポが、イエスの許へ来て『主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい、わたしたちは満足します』と要望したとき、救い主は次のように彼にお答えになった。『ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか』（ヨハネ 14:8, 9）。キリストはご自身が御父の代表としてこの世に遣わされたと言われた。そのご品性の高潔さにおいて、その憐れみと優しい同情において、またその愛といつくしみ深さにおいて、このお方はわたしたちの前に、神聖な完全さの具現化、すなわち見えない神のみかたちとして立っておられる。」（教会への証 5 巻 738, 739）

4. 律法の原則との調和

- a. キリストの十字架上の死は、律法に関して何を証明していますか。わたしたちの救いのために、何が今もなお、条件ですか（イザヤ 42:21; マタイ 5:17; 19:17）。

「しかし、キリストが地上にくだって苦難と死を受けられたのは、ただ人類の贖いを成し遂げるためだけではなく。キリストは『律法を大いなるものとし』（英語訳）これを『光栄あるものとする』ために来られたのである。この世界の住民が律法を正しく認識するようにするだけでなく、神の律法が不変なものであることを、宇宙の全世界に対して証明するためであった。律法の要求が廃止できるものであったら、神のみ子は罪を贖うためにご自分の生命をささげられる必要はなかったのである。キリストの死は、律法が不変であることを証明している。」（各時代の争闘下巻 241）

「キリストは、地上の生活によって神の律法をさがめられた。死によって、キリストは律法を確証なさった。キリストは、生命を犠牲としてささげられたが、それは神の律法を廃するためでも低い標準を設けるためでもなく、義が維持されるため、律法の不変性が示されるためであり、律法が永遠に確固として立つためであった。」（キリストの実物教訓 293）

- b. 贖いのわざにおいて、キリストが男女を改心させるためにお用いになるのは何ですか（詩篇 19:7; テモテ第一 1:8-10; ローマ 3:19, 20）。

「自分の罪を悟るためには、罪人は自分の品性を、神の義の偉大な標準によって吟味しなければならない。それは、正しい品性の完全さを示して、罪人に自分の品性の欠陥を発見させる鏡である。

律法は、人間に罪を示すが、救いは与えない。律法は、服従する者には生命を約束するが、犯す者には死を宣告する。人間を罪の宣告や罪の汚れから解放することができるのは、キリストの福音だけである。

……人間は、律法がなければ、神の純潔と神聖さ、あるいは自分自身の罪と汚れについて、正しい考えを持つことができない。罪についての真の自覚もなく、悔い改めの必要も感じない。自分たちが神の律法の違反者であるという失われた状態を悟らず、キリストの贖罪の血の必要を自覚しないのである。心の根本的変化も生活の改変もなしに、救いの希望を受け入れる。このような表面的改心が広く行なわれていて、キリストと結合したことのない多くの者が教会に加えられているのである。」（各時代の争闘下巻 195, 196）

5. 救い、悪の正反対

- a. はじめにアダムに何が与えられ、墮落後、サタンによって何が強奪されましたか。どのようにいつ、これはキリストの命と犠牲に基づいて回復されますか（創世記 1:26; ルカ 4:5,6; ヨハネ 12:31）。

「罪のために、人間だけでなく、地も悪者の支配下に陥った。そして、地も贖罪の計画によって、回復されなければならなかった。アダムは、創造されたときに、地の統治者としておかれた。ところが、誘惑に負けたためにサタンの支配下におかれた。『おおよそ、人は征服者の奴隷となるものである』（ペテロ第二 2:19）。人間がサタンの捕虜になったとき、彼の統治権は、征服者の手に移った。こうして、サタンは『この世の神』（コリント第二 4:4）となった。彼は、初めアダムに与えられた地の統治権を彼から奪った。しかし、キリストはご自分の犠牲によって、罪の罰を払い、人間を贖うばかりでなくて、人間が失った統治権をも回復して下さるのであった。第一のアダムによって失われたものはぜんぶ、第二のアダムによって回復されるのである。……地が神の力によって新しくされ、罪と悲しみから解放されて、贖われた者の永遠の住居となるときに、この目的は達成されるのである。『正しい者は国を継ぎ、とこしえにその中に住むことができる』（詩篇 37:29）。『のろわるべきものは、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝』する（黙示録 22:3）。」（人類のあけぼの上巻 59, 60）

- b. このお方の贖罪の犠牲の徳により、キリストは罪とそれに関わるすべての人と物を、どのように扱われますか（マラキ 4:1; 黙示録 20:14, 15; エゼキエル 28:19（下句））。

個人的な復習問題

1. キリストの受肉は、救いの計画にとって、なぜ不可欠なのですか。
2. 受肉の後、人類を罪から贖うべきお方の次の必要条件は何でしたか。
3. イエスはご自分の弟子と民に、文字通り何をお示しにならなければなりませんでしたが。
4. 人類がキリストの品性を表せるようにするために、キリストは彼らのために何をなさいますか。
5. アダムと強奪者の立場は、どのように入れ替わることになりますか。

神の律法

「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」(詩篇 119:18)

「人類のための犠牲は完全であったので、罪の汚れからの人類の回復も徹底的で完全でなければならない。神の律法はわたしたちに与えられている。それは、わたしたちが自分のふるまいを規定する規則を持つことができるためである。」(クリスチャン教育 112)

推奨文献：各時代の争闘下巻 191-196

日曜日

1月13日

1. 墮落以前の律法

- a. 墮落以前から律法が存在していたという証拠は何ですか (出エジプト記 16:4; 20:8 (上句))。

「神の律法は人の創造以前から存在していた。さもなければ、アダムは罪を犯すことができなかった。」(セレクテッド・メッセージ 1 巻 230)

「神の律法は、人が創造される前に存在していた。それは聖なる存在者たちの状態にあわせられており、天使たちでさえ、それによって統治されていた。」(同上 220)

「初めに、人間は 神のかたちに創造された。人間は、神の性質と神の律法とに完全に調和していた。義の原則が、彼の心にかかれていた。」(各時代の争闘下巻 194)

- b. すべての被造物が、神と互いの完全な調和のうちにあり続けるためには、どのような態度が必要ですか (詩篇 119:165)。

「造られたものの調和は、生物であれ、無生物であれ、すべてのものが創造主の律法に完全に一致することにかかっている。神は、生物のためだけでなく、自然のすべての営みを支配するために、法則をお定めになった。」(人類のあけぼの上巻 38)

2. 不法の結果

- a. 律法についてはなんとされていますか。永遠の命の条件は、なぜいつもそれに対する従順なのですか（ローマ 7:12; ルカ 10:25-28）。

「神の律法は、神ご自身と同様に、神聖なものである。それは、神の意志の啓示であり、神の品性の写し、神の愛と知恵の表現である。」（人類のあけぼの上巻 38）

「神の品性は、神の戒めの中に表現されている。そして、人間が神との調和を保つためには、神の戒めの原則が、すべての行為の源泉とならなければならない。キリストは、戒めが要求することを、少しもゆるやかにはなさない。絶対にまちがう余地のないはっきりしたことばで、永遠の命に入るには、戒めに従わなければならないことをお示しになった。これは、墮落前のアダムに要求されたのと同じ条件である。主は、エデンの園で人間に要求なさったのと同じ完全な服従と、しみのない義とを今も求めておられるのである。恵みの契約の下で要求されることは、エデンで要求されたものと同様に広いもので、聖にして、正しく、善である神の戒めとの調和である。」（キリストの実物教訓 370）

「福音は、律法の要求を弱めることはない。それは律法を高め、誉れあるものとする。新約聖書の下において、旧約聖書の下におけるものとまったく同様のものが要求されている。」（レクテッド・メッセージ 1 巻 373, 374）

- b. 何が不法ですか。不従順の避けられない結果はなんですか（ヨハネ第一 3:4; ローマ 6:23（上旬））。

「律法は完全な従順を要求している。『なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである』（ヤコブ 2:10）。十の規則のうちの一つでも破れば、天の神への不忠実となる。それらの要求のもっとも小さな逸脱は、怠慢であれ故意の違反であれ、罪であり、すべての罪は罪人を神の怒りの下にさらすのである。」（同上 218）

「すべての不法の行為は、罪人に作用し、彼のうちに品性の変化をもたらし、次に違反を犯すことを容易にする。罪を犯すことを選ぶことによって、人は自らを神から引き離し、自らを祝福の水路から切り離す。そして確かにその結果は破滅と死である。」（同上 235）

3. 墮落後の律法

- a. 不従順の結果として、どのような態度の変化がもたらされましたか。わたしたちの初めの父祖が神のご臨在から身を隠した事実によって、何が明らかですか(ローマ 8:7, 8; イザヤ 59:2)。

「罪が、〔人〕を創造主から引き離した。彼は、もはや、神のかたちを反映しなくなった。彼の心は、神の律法の原則と争うようになった。『肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである』(ローマ 8:7)。」(各時代の大争闘下巻 194)

- b. 律法は墮落後も変更されなかったことをどのように知ることができますか。それは後にどこに記されましたか(詩篇 119:152; 申命記 4:12, 13)。

「墮落後、義の原則は変更されなかった。何一つ律法から取り除かれたものはなかった。聖なる規則を一つとして改善することはできなかった。そして、それは初めから存在してきたし、永遠のつきない年月を通じて、存在し続けるのである。『わたしは早くからあなたのあかしによって、あなたがこれとこしえに立てられたことを知りました』と詩篇記者は言っている(詩篇 119:152)。」(ヘレテッド・メッセージ 1巻 220)

「アダムの変換後、律法の原則は変更されなかったが、人の墮落した状態に応じるために、明確に整えられ、表現された。」(同上 230)

- c. 新しい契約の下で、どこに律法が記されますか(ヘブル 8:10; 10:16)。

「人間を神の律法の原則に調和させることによって神と和解させるのは、改心と聖化の働きである。」(各時代の大争闘下巻 194)

『あなたのおきてはまことです』。……神の言葉と聖霊によって、神の律法の中に現われている義の大原則が、人間に示される。そして、神の律法は、『聖であって、正しく、かつ善なるものであり、神の完全の写しであるから、その律法に従って形造られる品性も、聖なるものとなる。キリストは、このような品性の完全な模範である。『わたし(は)わたしの父のいましめを守った。』「わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしている」と主は言われる(ヨハネ 15:10; 8:29)。キリストの弟子たちは、彼のようにならなければならない。神の恵みによって、神の聖なる律法の原則に調和した品性を形成しなければならない。これが聖書のいう聖化である。」(同上 197)

4. 律法と恵みは結合している

- a. 何の上に神の御座は基づいていますか。至聖所の中で、何がこのことを常に思い起こさせていましたか(詩篇 89:14; 出エジプト記 25:17-22)。

「神の住居である天の宮において、そのみ座は、義と公正に基づいている。至聖所には、正義の規準である神の律法があつて、全人類がそれによって審査されるのである。律法の板を入れた箱は、贖罪所で覆われていて、その前でキリストは、ご自分の血によって罪人のためにとりなしをなさる。こうして、人類の贖いの計画における、義といつくしみの結合が表わされている。この結合は、無限の知恵のおかたのみが考案し、無限の力のおかたのみが成し遂げることができた。この結合は、全天を、驚異と賛美で満たすものである。うやうやしく贖罪所を見おろしている、地上の聖所のケルビムは、贖罪の業に対する天の軍勢の深い関心を表わしている。これは、天使たちもうかがい見たいと願っている、あわれみの神秘である。すなわち、悔い改めた罪人を義とし、墮落した人類との交わりを回復するとともに、神自らが義となられること、また、キリストが、ご自分の身を低めて、無数の群衆を滅びの淵から引き上げ、彼ご自身の義の汚れない衣を着せて、彼らを墮落しなかつた天使たちとの交わりに入れ、神の前に永遠に住まわせられること、このことである。」(同上 127, 128)

- b. どの二つの原則がつねに調和していなければなりませんか。どのように、憐れみは律法を無効にしないことがわかりますか(詩篇 85:10)。

「律法と福音は完全に調和している。各々が互いを支えている。律法はことごとくその大権をもって良心に立ち向かい、罪人に、罪のためのあがないの供え物としてキリストを必要としていることを感じさせる。福音は律法の力と不変性を認める。パウロは、『律法によらなければ、わたしは罪を知らなかつたであろう』と宣言している(ローマ 7:7)。律法によって、罪の自覚が心に迫り、罪人を救い主の許へ駆り立てるのである。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 240, 241)

「キリストの恵みと神の律法は切り離すことができない。イエスのうちに憐れみと真理が共に会い、義と平安が互いに口づけした。このお方の生涯と品性に、神のご品性ばかりでなく、人の可能性も明らかにしておられる。」(同上 349)

5. 人類に望まれる神の理想

- a. 救いの計画によれば、神の子らに望まれる神の理想は何ですか（マタイ 5:48; ローマ 8:4）。

「神がご自分の子らに望まれる理想は、人間の最高の思いが達することができるよりもっと高い。『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』（マタイ 5:48）。この命令は約束である。あがないの計画には、われわれをサタンの権力から完全にとり戻すことがもくろまれている。キリストは、悔い改めた魂を、いつでも罪からひき離される。主は、悪魔のわざを滅ぼすためにおいでになったのであって、すべての悔い改めた魂に聖霊を与え、罪を犯さないように道を備えられた。」（各時代の希望中巻 20）

「律法は神のお考えの表現である。わたしたちがそれをキリストのうちに受け入れるとき、それはわたしたちの考えとなる。それは、わたしたちを生来の願望や傾向の力に超越させ、罪に導く誘惑に超越させる。『あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません』（詩篇 119:165）。」（セクレット・メッセージ 1 巻 235）

- b. この理想に到達するために、わたしたちは何と調和して生きなければなりませんか（詩篇 119:1, 142, 167; ヨハネ 17:17; ヤコブ 2:12）。

個人的な復習問題

1. 神の律法は、どのように完全な調和を維持しますか。
2. わたしたちは神の律法に従わない結果について、何をすることができますか。
3. 律法の永続性について、何をすることができますか。
4. 律法の石板を納めている契約の箱のふたから、どのような教訓を学ぶことができますか。
5. 何が信徒をキリストに似た者としてすることができますか。

キリストの人性

「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。」(ヨハネ 1:14)

「神の御子の人性は、わたしたちにとってすべてである。それはわたしたちの魂をキリストに、そしてキリストを通して神に結びつける黄金の鎖である。これがわたしたちの研究主題となるべきである。キリストは本物の人であられた。」(ユース・インストラクター- 1898年10月13日)

推奨文献： レクテッド・メッセージ 1巻 246-247;
 各時代の希望上巻 124-132

日曜日

1月20日

1. 人となられたキリストの系図

- a. この地上に来られるとき、キリストはどのかたちをとる必要がありましたか。それはなぜですか (ローマ 8:3; ヨハネ 1:14)。

「イエスは人と神の間の仲保ができるために人となられた。このお方はご自分の神性を人性で覆われ、人類と交わられた。それはこのお方の人としての長いみ腕をもって人類を抱き、またこのお方の神性のみ腕をもって神性のみ座をつかむためであった。そしてこれは、このお方がサタンの魅惑的な誘惑を通して人がエデンで失った元の思いを人に回復なさることがおできになるためであった。」(パイブル・コメント[E, G, お初付コメント] 7-A487)

- b. 肉によれば、キリストはだれの子孫ですか。このお方はご自分の母親から何を受け継がれましたか (創世記 3:15; 22:18; ローマ 1:3)。

「アダムがエデンで罪を知らなかったときでさえ、神のみ子が人の性質をおとりになることは無限の屈辱に近かった。ところがイエスは、人類が四千年にわたる罪によって弱くなっていた時に人性をおとりになったのである。アダムのすべての子らと同じように、イエスは遺伝という大法則の作用の結果をお受けになった。そのような結果がどういふものであるかは、イエスのこの世の先祖たちの歴史に示されている。主は、われわれの苦悩と試みにあずかり、罪のない生活の模範をわれわれに示すために、このような遺伝をもっておいでになったのである。」(各時代の希望上巻 35)

2. キリストの人性

a. 神の御子の神性は、預言者イザヤによって、どのように描写されていますか（イザヤ 53:2-4）。

「キリストは墮落した状態にある人間の性質をご自身に取られたが、ほんのわずかでさえその罪にあずかることはなかった。このお方は人間が取り囲まれている脆弱さや弱さの下にあられた。『これは、預言者イザヤによって「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである』（マタイ 8:17）。このお方はわたしたちの弱さを感じて思いやるお方であり、あらゆる点においてわたしたちと同じように誘惑に会われた。』（バIBLE・COMMENTARY[E. G. 初刊] 5 巻 1131)

b. 使徒パウロは、キリストが受け継がれた人性の現実性をどのように描写していますか（ヘブル 2:14, 17（上句））。

「キリストは人性を取ることを信じさせたのではなかった。このお方は本当にそれを取られたのであった。このお方は現実的に人性を持っておられた。』（ヘブル・メッセージ 1 巻 247)

「四千年間にわたって、人類は体力も知力も道徳価値も低下していた。しかもキリストは退歩した人類の弱さを身につけられた。こうすることによってのみキリストは人類を墮落の一番深い底から救うことができになるのであった。』（各時代の希望上巻 124)

「イエスは、あらゆる点において、兄弟たちと同じようになられた。イエスは、われわれと同じように、肉体をおとりになった。彼は飢え、渇き、お疲れになった。主は、食物によって力づけられ、睡眠によって元気を回復された。イエスは人と同じ身分でありながら、しかもきずのない神の御子であられた。イエスは、肉体をとられた神であられた。キリストのご品性がわれわれのものとなるのである。』（同上中巻 20)

「これは天が見るなんとという光景であろう。罪や汚れのしみを少しも知らないお方であるキリストが、退化した状態のわたしたちの性質をお取りになったのである。これは有限な人間が理解できるよりもはるかに大きな屈辱であった。神が肉において現われた。このお方はご自身を低くされた。なんと深く、真剣に瞑想すべき思想の主題であろう。このお方は無限に偉大な天の大君であられながら、このお方の尊厳と栄光をほんのわずかでさえ失うことなく非常に低く身をかがめられた。このお方は貧しさにまで、そして人々における最も深いところまで身をかがめられた。わたしたちのためにこのお方は貧しくなられた。それは、ご自分の貧しきを通して、わたしたちが富む者とされるためであった。『きつねには穴があり、空の鳥には巢がある。しかし、人の子にはまくらす所がない』とこのお方は言われた（マタイ 8:20）。』（ヘブル・メッセージ 1 巻 253)

3. キリストが墮落することもあり得た

- a. キリストはわたしたちが直面しなければならないすべての誘惑に会われたと言うことがどのようにわかりますか。またそれは何の目的のためでしたか(ヘブル 2:17, 18; 4:15; 5:1, 2)。

「人類にふりかかるありとあらゆる不幸と誘惑を経験されたのはキリストだけである。この世に生まれた者で、キリストほど激しく誘惑に攻められ、世の罪と苦悩という重荷を負われたおかたは他にない。」(教育 78)

「神の御子は一步ごとに闇の主権者たちによって攻撃された。バプテスマの後、このお方は御霊に荒野に追いやられ、40日間誘惑に苦しめられた。何通もの手紙がわたしのもとへ送られ、キリストは人と同じ性質を取ることはできなかつたはずだ、もしそうであれば、同様の誘惑の下で墮落したはずだというのであつた。もしこのお方が人の性質を取られなかつたのであれば、わたしたちの模範となることはおできにならなかつた。もしこのお方がわたしたちの性質にあずかるお方でなければ、このお方は人と同じように誘惑に会うことがおできにならない。もしこのお方が誘惑に屈する可能性がなければ、わたしたちの助け主となることはできなかつた。キリストが人として、人のために、闘いをたたかうために来てくださったとは、厳粛な現実であつた。」(エリテッド・メッセージ 1巻 408)

- b. キリストの人性と、このお方が誘惑の下で墮落する可能性についてのさらなる証拠は何ですか。この結果に何がかかっていたか(コリント第二 5:21; ヘブル 5:7, 8)。

「屈する可能性がなければ誘惑は誘惑とならない。人が力強く悪い行いをするように影響を受けるときに、自分がそれをする事ができると知りながら、信仰によって神聖な力をしっかりつかんで抵抗するとき、誘惑は抵抗される。これがキリストの経験された厳しい試練であつた。このお方に墮落する可能性がなかつたならば、人が誘惑されるようにあらゆる点において誘惑に会われることはできなかつたのである。……

キリストが受けられた誘惑は恐ろしい現実であつた。自由な存在として、このお方はサタンの誘惑に屈して神のご目的を妨げるために働く自由をもって恩恵期間におかれた。もしそうでなければ、もしこのお方に墮落する可能性がなければ、このお方は人類家族が誘惑されるようにあらゆる点において誘惑されることはできなかつたのである。」(パイブル・コメント [E. G. 初作コメント] 5巻 1082)

「キリストは、ここですべてのものを失う危険を冒しておられたことを忘れてはならない。わたしたちの贖罪のために、天そのものが危機におちいつたのである。十字架の下に立って、キリストはただ一人の罪人のためでさえ、その命をおすてになつたのだということを考えるとき、はじめて一人の魂の価値を正しく評価することができる。」(キリストの実物教訓 176, 177)

4. キリストの誘惑の厳しさ

- a. キリストにとって荒野での誘惑をこれほど厳しいものにしたのは、何でしたか（ルカ 4:2, 12, 13）。

「わたしたちの救い主は、弱いわたしたちの兄弟となり『すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ』た（ヘブル 4:15）。しかし、罪なきお方として、そのご性質が悪を退けた。このお方は罪の世にあって、はげしい魂の戦いと苦悩に耐えられた。」（キリストへの道 127）

「律法を犯したために生じたあらゆる罪、あらゆる不和、あらゆるけがれた欲がイエスの心を苦しめた。」（各時代の希望上巻 116）

「キリストが試みに負けることは不可能だったのだと主張する人が多い。もしそうなら、キリストはアダムの立場に置かれることはできなかつたし、アダムが得られなかつた勝利を得ることもおできにならなかつたであろう。もしわれわれが何らかの意味でキリストよりもきびしい戦いをたたかわねばならないとしたら、キリストはわれわれを救うことがおできにならないであろう。だが救い主は、罪の負債ごと人性をおとりになった。彼は試みに負ける可能性のまま人間の性質をおとりになった。キリストが耐えられなかつたことで、われわれの耐えねばならないことは何一つない。」（各時代の希望上巻 124, 125）

「わたしたちが〔キリストの〕人性に、人がサタンとの闘いにおいて持つことのできない力を与えるならば、このお方の人性の完全さを破壊することになる。」（バイブル・コメント [E. G. 初作コメント] 7 巻 929）

「わたしたちの主は人が誘惑に会うのと同じように誘惑された。このお方は人と同じように、誘惑に屈することがおできになった。このお方の有限な性質は純潔でしみがなかつたが、ピリポに向かって『わたしを見た者は、父を見たのである』と言わせた神性はまた人性化されたのではなかつた。人性もまた二つの性質の混ぜ合わせもしくは結合によって冒されたのではなかつた。それぞれはその本質的な性質と特性を維持していた。

しかし、ここでわたしたちは自分たちの考えの中で、通俗的で地上的になつてはならない。わたしたちのゆがんだ考えの中で、サタンの誘惑に屈することのできるキリストの性質が、このお方の人性を低下させ、このお方が人と同じ罪深く、墮落した傾向を持っておられたかのように考えてはならない。

神性は、人性と結合して、このお方がサタンの誘惑に屈することを可能とした。この点において、テストはアダムやエバよりもはるかに大きかつた。なぜなら、キリストはわたしたちの性質、すなわち倒れたが腐敗してはいない性質を取られたからである。そして、サタンのことばを神の言葉の代わりに受け入れない限り、腐敗しないのであつた。このお方が誘惑に屈することはできなかつたと考えることは、このお方を人のための完全な模範となれないところへおく。そしてもっとも重大なキリストのへりくだりのこの部分の強さと力が、人間にとって教えとも助けともならなくなる。」（原稿別ス 16 巻 182, 183）

5. キリストの成長と勝利

- a. 人に共通するどの経験によって、イエスは勝利のための道を備えられましたか。またどの結果が伴いましたか（ルカ 2:40, 52; ヘブル 5:8, 9）。

「イエスの一生は神と調和した生涯であった。子供の時分には子供のように考え、子供のように語られた。しかしイエスのうちにある神のみかたちを傷つける罪のあとではなかった。それでも彼は試みからまぬかれてはおられなかった。ナザレの住民は悪いことで有名だった。彼らが一般からどんなに低く見ざげられていたかは、ナタナエルが、『ナザレから、なんのよい者が出ようか』と質問したことばにあらわれている（ヨハネ 1:46）。イエスはその品性を試みられるような場所におかれた。」（各時代の希望上巻 64）

- b. 誘惑に対する勝利の秘訣は何ですか。キリストはご自分が勝利されたように勝利する人々に何を約束なさいましたか（ペテロ第一 2:23; ヤコブ 4:7; 黙示録 3:21）。

「〔キリスト〕は、サタンがエデンで勝利を得たのと同じ性質のうちにサタンを打ち負かされた。敵はキリストにその人性において打ち負かされた。救い主の神格の力は隠されていた。このお方は人性において、力を神により頼み、勝利なさった。これはすべての人の特権である。わたしたちの信仰に、わたしたちの勝利は比例する。」（ユース・インストラクター 1901年4月25日）

個人的な復習問題

1. キリストはアダムの家系から、どのような遺産を受けられましたか。
2. イエスが真に人の中で人として生きられたことを、何が明らかにしていますか。
3. キリストが他の人と同じ方法で現実の誘惑に会われなければならなかったことが、どのようにわかりますか。
4. 人の子としてキリストが自ら誘惑に会われなければならなかったとき、どの事実がこのお方の誘惑をわたしたちの誘惑より厳しいものにしましたか。
5. キリストはどのように勝利のために備えられましたか。またこのことから、わたしたちは何を学ぶことができますか。

第一安息日献金

世界災害救済金のために

何が真の宗教でしょうか。「父なる神のみま
えに清く汚れのない信心とは、困っている孤児
や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まず
に、身を清く保つことにほかならない」(ヤコブ
1:27)。世界災害救済金は、もっとも困窮してい
る人々―地震や竜巻や他の災害によって、衝撃
的な経験を切り抜けてきた人々―を助けるための
召しに応えます。真に困っている人々を助けていただけませんか？



「わたしたちのタラントの総額がいくらであろうと、それが一でも二でも五でも、一文たりとも虚無や誇りや利己心のために浪費されてはならない。わたしたちの蓄財のードルードルには、神のみかたちと銘が押されている。神のみ国に養われるべき飢えた者、覆うべき裸の者、救いのパンと水のために滅びつつある魂がいる限り、すべての不要な放縦や、すべての余剰資本は、貧しい者や裸の者のために訴えている。」(サイン・オブ・タイムズ 1892年6月20日)

世界災害救済金は、この援助を調整する責任を担っています。そしてそれは完全にボランティア運営であり、従業員も間接費もないため、すべての献金は100%直接、全額が福祉伝道にあてられます。世界災害救済金のすべての運営費は、通常の教会献金でまかなわれます。それによって世界災害救済金は、集金した一円まで最も困窮している人々へ捧げることができます。

スリランカにおける食料支給から、南インドにおける貧困救済まで世界災害救済は世界中に送られてきました。この安息日には皆さんも福祉伝道において援助する機会があります。「神が人にお委ねになった金銭は、人類を祝福するために、苦しむ人や困窮している人の必要を軽減するために用いられなければならない。……神の賢明なみ摂理によって、彼らの前にたえず、まさに彼らの助けを必要としている人々が示される。彼らは苦しんでいる人々を救済し、裸な者に着せ、厳しい試練の環境にいる多くの人々、すなわち全精力を尽くして貧困者の家庭から自分と自分の家族を守るために格闘している人々を助けなければならない。」(レビュー・アンド・ヘラド 1898年1月4日)

世界総会福祉支部

キリストの神性

「彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり」（ルカ 1:32）

「わたしたちの主イエスは、神に何ができるかではなく、いと近き助けとして神の力を信じる信仰を通して人に何ができるかを表わすために来られた。」（わたしたちの高い召し 48）

推奨文献：セレクトド・メッセージ 3巻 134-142

日曜日

1月27日

1. 神の御子の受肉

- a. 神の御子が仲保者として来られることに関して、どのような預言がなされましたか（ヘブル 10:5; ヨハネ 1:14）。

「シカイナ（注・贖〔しょく〕罪所のエホバの栄光）はすでに聖所からとり去られていたが、栄光はベツレヘムの幼子イエスのうちにおおいかくされ、その前に天使たちは頭をたれるのであった。何も知らないこの幼子は、約束の後裔で、エデンの門の最初の祭壇はこのおかたをさしていた。この幼子こそ平和を与えるおかた、シロであった。『われはありてある者なり』とモーセにご自身を宣告されたのはこのおかたであった。雲と火の柱の中にあつてイスラエルをみちびかれたのはこのおかたであった。これこそ預言者たちが長い間預言してきたおかたであった。彼は万国の民の願望であり、ダビデの祖先でありまた子孫であり、輝くあけの明星であった。イスラエルの名簿に書きこまれ、われわれの兄弟たることを宣告されたこの無力な小さな赤ん坊の名前こそ、墮落した人類の望みであった。あがないの金を払ってもらったこの子供が、全世界の罪のためにあがないの金を払われるおかたであった。彼は、『神の家を治める大いなる祭司』であり、『変らない祭司の務』の長であり、『高き所にいます大能者の右に、座につかれた』仲保者であった（ヘブル 10:21; 7:24; 1:3）。」（各時代の希望上 40～42）

- b. ピラトはどのように神の御子を群衆に示しましたか。どの点において彼は正しく、どの点において誤っていましたか（ヨハネ 19:5, 15; 18:36）。

2. キリスト、神の御子

a. 神のみ言葉は、キリストの誕生をどのように説明していますか（ルカ 1:30-32）。

「しかし、キリストの神の栄光は、このお方が人性を取られることによって、一時覆い隠されたとはいえ、このお方は人となられたときに神であられることをやめられたのではなかった。人性が神性にとって代わったわけでも、神性が人性にとって代わったわけでもなかった。これは信心の奥義である。二つの表現、『人性』と『神性』は、キリストのうちで、密接に不可分に一つであったが、それらははっきり区別された個性であった。キリストは人となられてご自分を低くされたが、神格はなおこのお方ご自身のものであった。このお方の神格は、ご自分の忠義に忠実で真実である間は失われることはあり得なかった。」（パイブル・コメント [E. G. ホイト] 5巻 1129）

「マリヤの子の人性が神の御子の神性と入れ代わったのであろうか。否、二つの性質は神秘的に、ひとりのお方一人なるキリスト・イエスのうちに混ぜ合わされていた。このお方のうちに、神格の満ちみちた徳がみなかたちをとっていた。」（同上 1113）。

b. 人として、このお方はまたどのような他の性質を持っておられましたか。受肉の奥義を説明するとき、わたしたちはどのような危険を避けなければなりませんか（ルカ 1:34, 35）。

「あなたがキリストの人性をめぐっていかに考えるかに注意しなさい。はなはだ注意しなさい。このお方を人々のために罪の傾向を持った人として提示してはならない。このお方は第二のアダムであられる。第一のアダムは、その身に罪のしみがなく、純潔で罪のない存在として創造された。彼は神のみかたちに創造された。彼は堕落することができたし、違反を通して堕落した。罪のゆえに、彼の子孫は不従順の遺伝的な傾向をもって生まれた。しかし、イエス・キリストは、神のひとり子であられた。このお方はご自分の身に人性を取られ、人性が誘惑されるすべての点において誘惑に会われた。このお方は罪を犯すことが可能であった。このお方は堕落することが可能であったが、一瞬たりともこのお方のうちには悪への傾向はなかった。このお方はアダムがエデンで誘惑に攻撃されたように、荒野で誘惑に攻撃された。……

〔ルカ 1:31-35 引用〕。これらの言葉は他のだれでもなく、無限の神の御子に言及しているのである。決して、いかなる方法においても、キリストに堕落がほんのわずかでも、あるいはその傾向があったかのような印象を、もしくはこのお方が何らかの方法で堕落に屈したかのような印象を、人の思いにわずかでさえ残してはならない。このお方は人が誘惑されるようにあらゆる点において誘惑に会われたが、なお『聖なるもの』と呼ばれているのである。」（同上 1128）

3. キリスト、命の源

a. とこしえから、キリストは何であられましたか (ヨハネ 1:4)。

『この言に命があった。そしてこの命は人の光であった』(ヨハネ 1:4)。ここで述べられているのは、身体的な命ではなく、永遠の命、ただ神のものである命のことである。神と共におられ、神であられた言は、この命を持っておられた。身体的な命は各自が受けるものである。それは永遠でも不死でもない。なぜなら、神、すなわち命の与え主がそれを再び取り上げられるからである。人は自分の命に対する支配権がない。しかし、キリストの命は借りたものではなかった。だれもこのお方からこの命を奪うことはできない。『わたしが、自分からそれを捨てるのである』とこのお方は言われる(ヨハネ 10:18)。このお方のうちに、元の借り物でも派生したものでもない命がある。この命を人は受け継いでいない。彼はキリストを通してのみ、所有することができる。彼はそれを稼ぐことはできない。もし彼が自分の個人的な救い主としてキリストを信じるならば、無償の賜物として彼に与えられるのである。』(パイヴル・コンクリ [E. G. ホイトコム] 5巻 1130)

b. なぜイエスはこの地上に来られたのですか。そしてこのお方はご自分を受けられる人々に何をもちこたせられましたか。神の御子を信じない人々は何を所有することがありませんか (ヨハネ 10:10 (下句) , 28; ヨハネ第一 5:11, 12)。

「すべての被造物は、神のみ旨と力によって生きている。彼らは神の御子の命を受けている者である。どれほど有能で才能があっても、どれほど彼らの容量が大きくても、あらゆる命の源であるお方から命を補給されている。このお方は命の湧き水であり、泉であられる。不死を持っておられ、光と命のうちに宿っておられる唯一このお方だけが、『わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある』と言うことがおできになった。……キリストは不死を与える権利を授けられた。このお方が人性のうちに捨てることがおできになった命を、このお方は再び取り上げて、人類にお与えになる。『わたしがきたのは』『命を得させ、豊かに得させるためである』と言われる(ヨハネ 10:10)。」(同上 1113)

「もしわたしたちが自分の不法を悔い改め、キリストを命の与え主、自分の個人的な救い主として受け入れるならば、このお方と一つになり、わたしたちの意志は、神聖な意志と調和するようになる。わたしたちはキリストの命、すなわち永遠の命にあずかる者となる。わたしたちはキリストの命を受けることによって、神から不死を得るのである。なぜなら、キリストのうちに満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っているからである。この命こそ、神性と人性の神秘的な結合であり、協力である。」(サインズ・オブ・タイムズ 1897年6月17日)

4. 誘惑に対するキリストの勝利

a. イエスの勝利の秘訣は何でしたか(ヨハネ 4:34; 5:30)。

「人性の弱さのうちにあってキリストは、神が御使たちに授けられた力と、より高い性質を持った者の誘惑に会わなければならなかった。しかし、キリストの人性は、神性と結合していた。そしてこの強さのうちに、このお方はサタンがご自分にもたらし得るすべての誘惑に耐えながら、なおご自分の魂が罪によって汚されないよう守られるのであった。そして勝利するためのこの力を、このお方は信仰によってご自分のご品性の義なる特質を受けるすべてのアダムのむすこ娘にお与えになるのであった。」(セラテッド・メッセジ 1 巻 223)

b. 人はどのように誘惑に勝利することができますか(ピリピ 4:13)。いつも何が必要ですか(ヨハネ 15:4-6)。

「キリストは、神性と結合するときに、人性がいかに完全になるかという実例を与えるために来られた。」(同上 260)

「救い主は、人間がどうして勝利を得るかを示すために勝利された。キリストは、サタンのすべての誘惑に対して神のみ言葉をもって応じられた。神の約束に信頼なざって、神の律法に服従する力をお受けになったため誘惑者は勝つことができなかった。一つ一つの試練に対するイエスの答は『……と書いてある』であった。神はわたしたちが悪に抵抗するためにそのみことばをお与えになった。『世にある欲のために滅びることを免れ神の性質にあずかる』ために大いなる尊い約束が与えられている(ペテロ第二 1:4)。」(ミスト・オブ・ヒーリング 156)

「枝とぶどうの木とのつながりは、あなたがたとわたしとの間の関係を表わしていると、キリストは言われた。若枝が生きたぶどうの木につがれて、せんいはせんいと、木目は木目とつながって、木の幹へと生長するのである。ぶどうの木の生命は枝の生命となる。そのように、罪とがのうちに死んだも同様の魂は、キリストにつながることによって生命を受けるのである。キリストを自分自身の救い主として信じる信仰によって、この結合がなされる。……キリストとのこのつながりは、一度できたら、持続しなければならない。……これは気まぐれな接触でもなければ、ついたり離れたりする関係でもない。枝は生きたぶどうの木の一部となるのである。根から枝への生命と力と実りの伝達はさまたげられることなく、たえまなく行なわれる。ぶどうの木から離れると、枝は生きることができない。あなたがたはわたしを離れては生きることができないと、イエスは言われた。あなたがたがわたしから受けた生命は、たえまないまじわりによってのみ持続されるのだ。わたしなしでは、あなたがたは一つの罪にうち勝つことも、一つの試みに抵抗するともできない。」(各時代の希望下巻 163, 164)

5. 死すべき人の子と不死の神の子

- a. わたしたちがみなあずかっているのと同じ血肉にあずかることによって、主イエスはまたどの結果をご自身に負われましたか（ピリピ 2:7; ヘブル 2:14）。

「〔主イエス・キリスト〕はご自身を低くされ、その身に死すべき運命を取られた。人類家族の一員として、このお方は死すべき者であられた。しかし神として、このお方は世に対する命の泉であられた。」（ハイブル・コメント [E. G. ホイトコメント] 5 巻 1127）

- b. キリストの神性は、どのようなものでしたか。なぜこのお方はご自身の命を捨てようと思ひ、そうすることがおできになったのですか（テモテ第一 3:15, 16; ヨハネ 2:18-22; 17:5, 24）。

「御使の声が『あなたの御父が呼んでおられます』というのが聞こえたとき、『わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある』、『この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう』と言われたお方は（ヨハネ 10:17; 2:19）、墓からご自身のうちにあった命へと出てこられた。神性は死ななかつた。人性は死んだが、キリストは今やヨセフの破られた墓に対して、『わたしはよみがえりであり、命である』と宣言なさる（ヨハネ 11:25）。ご自分の神性のうちに、キリストは死のくびきを断ち切る力を持っておられた。このお方はご自分の望む人を生き返らせる命をご自身のうちに持っていたのだと宣言なさる。」（同上 1113）

個人的な復習問題

1. 神の御子は、どのような様子でユダヤ国家に現われましたか
2. わたしたちはキリストの受肉に関連して、いつも何を覚えていなければなりませんか。
3. ご自分を信じる人々へのキリストの賜物は何ですか。
4. すべての誘惑に対する人の子の勝利の秘訣は何でしたか。
5. どのように、またいつキリストはご自分を a) 人の子として、b) 神の子として、はっきり表わされましたか。

キリスト—わたしたちの希望と義認と義

「あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。」(コリント第一 1:30)

「わたしたちは自分自身の功績を通して天を獲得するのではなく、イエス・キリストの功績を通して獲得するのである。わたしたちは個々に自分自身のうちに救いを見出すことはできない。わたしたちの信仰の創始者であり、完成者であられるイエスを見なければならぬ。そしてわたしたちが見るとき、生きるのである。」(ビュー・アード・ハルド 1896年6月9日)

推奨文献：セレクトド・メッセージ 1巻 385-388

日曜日

2月3日

1. 人々は自分自身をふさわしい者とするとはできない
 - a. キリストは罪深い人の状態をどのように描写されましたか。罪人が悟らないことは何ですか (ルカ 15:3, 4)。

「罪人は迷子の羊として表わされており、迷子の羊は羊飼いに見つけ出されて囲いに連れ帰ってもらわない限り、決して囲いに戻ることはない。だれも自分自身で悔い改めることも、義認の祝福に自らをふさわしい者とするともできない。主イエスは絶えず罪人の思いに印象づけようとしておられ、世の罪を取り除く神の小羊であられるご自分を見るように引きつけて下さっている。わたしたちはイエスが魂を引き寄せ、力づけて、わたしたちを二度と悔い改める必要のない悔い改めを経験するように導いて下さらない限り、一歩たりとも霊的な生涯へ踏み出すとはできない。」(セレクトド・メッセージ 1巻 390, 391)
 - b. 罪人は自分の負債を支払うためにほんのわずかでさえも自らを助けることができないという事実をどの譬が描写していますか (ルカ 7:41, 42)。

「だれも、人の何らかの行いが、自分の不法の負債を清算するのに、ほんのわずかででも助けることができるという限られた狭い立場に立つことがないようにしなさい。これは致命的な欺瞞である。」(パウル・コムリ [E. G. 柯什コト] 6巻 1071)

2. キリストの功績がわたしたちの唯一の希望である

- a. 罪人はどのようにしてのみ、希望を見出すことができますか。その人がなす必要のあることは何ですか (エペソ 1:6, 7; コリント第一 1:30)。

「恵みとは価しない者への恩寵であり、信徒は自分自身の功績は何もなく、神に訴える何の権利もなしに義と認められる。彼は天の宮で罪人の身代わりまた保証人として立っておられるイエス・キリストのうちにある贖いを通して義と認められる。」(セレクト・メッセージ 1巻 398)

「罪人は義認の手段として自分自身のよい行いにたよることはできない。彼は自分のすべての罪を捨て、自分の行く道を光が照らすとき、次々と一つずつとらえる地点にまでいたらなければならない。彼は単純に信仰によってキリストの血のうちに提供された無償にして十分な備えをつかむのである。彼は、キリストがわたしたちの義と聖とあがないとになられたという神のみ約束を信じるのである。」(パウル・コム列 [E. G. ホットコム] 6巻 1071)

- b. 自分たちは完全に神により頼んでいると考えるある人によって何が現されますか。真の信仰はそれ自体どのように現われますか (マタイ 11:28-30; ヨハネ 15:5 (下句))。

「悔い改めと告白をもって神のみ許にきて、自分たちの罪が許されることを信じている人々の中でさえ、なお彼らがすべきほど神のみ約束をわが者と主張しない。彼らはイエスがいつもおられる救い主であることを悟らず、自分たちの魂をこのお方の守りにゆだね、自分たちの心のうちに始めてくださった恵みの働きを完成して下さるためにこのお方により頼む用意ができていない。彼らは自らを神にゆだねていると考えるが、かなりの自己依存が存在する。部分的に神に信頼し、部分的に自分自身に信頼する良心的な魂がいる。彼らは神のみ力によって守っていただくために神を見ず、神に受け入れていただくことについて、誘惑に対する警戒と、しかるべき義務の遂行にたよっている。このような信仰には勝利はない。このような人は無駄に苦勞する。彼らの魂はたえず奴隷のくびきのうちにあり、自分たちの重荷をイエスの足元へおくまでは休息を見出すことがない。

絶えざる見張り熱心で愛に満ちた献身が必要であるが、これらは魂が信仰を通して神のみ力に守られているとき自然におこるのである。わたしたちは神聖な恩寵に自らを推薦するためには何も、まったく何もできない。……神は完全に十字架につけられた救い主の功績に信頼してご自分の許へ来るすべての人を受け入れてくださる。」(セレクト・メッセージ 1巻 353, 354)

3. カインからの教訓

- a. カインとアベルの捧げ物の違いは何でしたか。なぜ主はアベルの犠牲を受け入れ、カインがもってきた捧げ物は拒まれたのですか(創世記 4:3-5)。

「カインは約束の犠牲について、また犠牲の供え物の必要について、心中に不平と不信をいだきながら神の前に来た。彼の供え物は、罪の悔い改めの表明ではなかった。彼は、今日の多くの人々と同様に、神に指示された通りの計画に従い、約束の救い主の贖罪に全く自分の救いをゆだねることは弱さを承認することであると思った。彼は、自己信頼の道を選んだ。彼は自分の功績に頼った。彼は小羊を持ってきて、その血を供え物にまぜることをしないで、彼の実、彼の労働の産物をささげた。彼は自分から神にささげるものとして供え物をささげ、それによって、神に喜ばれたいと思った。カインは、神に従って祭壇を築き、犠牲をたずさえてはきたが、彼は部分的に従っただけであった。彼は最も重大な部分、すなわち、救い主の必要を認めることを省略していた。」(人類のあけぼの上巻 66)

- b. カインの犠牲とだれの努力が対比されていますか。魂はいつ勝利から勝利へと進みますか(ルカ 18:11-13)。

「律法を守るための自分自身の行いによって天へ到達しようとしている人は、不可能なことを試みているのである。人は従順なくして救われることはできないが、彼の行いは自分自身のものであるべきでない。キリストが彼のうちに神のよしとされる願いを起こさせ、実現に至らせてくださるべきである。もし人が自分自身の行いによって自らを救うことができるならば、何か喜ぶべきものが彼のうちにあることであろう。人が自分自身の力で救いを得ようとなす努力は、カインの捧げ物として表わされている。キリストなしに人がなし得ることはみな利己心と罪に汚れている。しかし、信仰を通してなされることは神に受け入れられる。わたしたちがキリストの功績を通して天を得ようと努めるとき、魂は進歩する。信仰の創始者であり完成者であられるイエスを仰ぎつつ、わたしたちは力から力へ、勝利から勝利へと進むことができる。なぜなら、キリストを通して神の恵みがわたしたちの完全な救いを実現してくださったからである。」(エレテッド・メッセージ 1巻 364)

4. キリストを通して回復と和解

a. わたしたちのためにどのような備えがなされましたか(コロサイ 1:21, 22)。

「わたしたちは神の律法を犯した。そして律法の行いによっては、肉は義と認められることがない。人が自分自身の力でなし得る最高の努力は、自分の犯した聖にして義なる律法に應える価値がない。しかし、キリストを信じる信仰を通して、彼はまったく十分なものとして神の御子の義をわがものと主張することができる。このお方はご自分の人性において律法の要求を満たしてくださいました。このお方はだれでもご自分を信じる人は、滅びることなく、永遠の命を持つことができるように、罪人のために律法ののろいを負い、彼のための贖罪をなしとげてくださいました。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 363)

b. 罪の完全な許しのために、どのような励ましの宣言がなされましたか(ヨハネ第一 1:9)。

「わたしたちは肉の完全を主張することはできないが、魂のクリスチャンの完全を持つことはできる。わたしたちのためになされた犠牲を通して、罪は完全に許されることができ。わたしたちのよりどころは、人に何ができるかではなく、神がキリストを通して人のために何ができるかにある。わたしたちがあますことなく神に自らを明け渡し、完全に信じる時、キリストの血がすべての罪から清めてくださる。良心は呵責から解放される。このお方の血を信じる信仰を通して、すべての人はキリスト・イエスのうちに完全にされることができる。わたしたちが不可能を扱っているのではないことを神に感謝しよう。わたしたちは聖化をわがものと主張することができる。わたしたちは神の恩寵を楽しむことができる。わたしたちはキリストや神がわたしたちを何とお思いになるかを案ずるのではなく、神がわたしたちの身代わりであられるキリストをどのように思われるかについて考えるべきである。」(同上 2 巻 32, 33)

「キリストは利己的な世界を利己心の確実な結果からお救いになるために死なれた。このお方は全世界に対する愛とあわれみと同情のうちにご自分の心を開いておられる。このお方はご自分の許へ来て、完全にして無償である許しを受けようと堕落した者を招いておられる。このお方のご品性は利己心のみが一切なく全天の前にある。このお方はご自身の心のうちにあるその慈愛を男女にもたすために完全な犠牲を払われた。このお方は思いと心に印象づけ、ご自分が人々を愛されたように人々が自分の同胞仲間を愛するように導くために、ご自分の聖霊を遣わされた。」(ビュー・アンド・ワールド 1902 年 1 月 7 日)

5. 神と和解する

- a. わたしたちはどのようにしてのみ、神と和解することができますか（コリント第二 5:18-21）。

「信徒は自分で神とやわらぐように召されてはいない。彼は決してそのように召されたことはないし、そうすることもできない。彼はキリストを自分の平和として受け入れるべきである。なぜなら、キリストと共に神と平和があるからである。キリストは罪に終わりを告げ、その重いのろいをご自身の身に木の上で負われた。そしてこのお方はご自分を個人的な救い主として信じるすべての人からのろいを取り除かれた。このお方は心の中における罪の支配的な力に終わりを告げ、信徒の生活と品性は、キリストの恵みの本当の性質を証するのである。」（セクレッド・メッセージ 1 巻 395）

- b. キリストはなぜわたしたちを御父と和解させることができになるのですか。キリストを通して、神の心から罪人の心へと何があふれるのですか（ローマ 5:6-9; ヘブル 2:17, 18）。

「和解とは魂と神の間のすべての障壁が取り除かれること、また罪人が神の許しの愛が何を意味するかを悟ることを意味する。キリストが墮落した人類のために払われた犠牲のゆえに、神は正当にキリストの功績を受け入れる違反者を許すことができになる。キリストは神の心から罪人の心へ、憐れみと愛と義があふれて通ることのできる水路であられた。『彼は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる』（ヨハネ第一 1:9）。」（同上 396）

個人的な復習問題

1. キリストのない罪人の状態はどのようなものですか。
2. 真の信仰によって何がなされますか。
3. 聖書は自分が最上だと考える方法で主を礼拝することを望む人々について何と教えていますか。
4. 男女はどのようにして真に義とされることができますか。
5. 神との完全な和解にどのような祝福が続きますか。

義認は罪ののろいから救う

「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられた」（ローマ 3:23-25）

「救いの道が備えられている。なぜなら、しみのない神の小羊が世の罪を取り除くお方として表わされているからである。イエスは罪人の立場に立ち、不法者の罪をご自身の身に引き受けられる。罪人の身代わりであり、保証人であられるお方を見続けることによって、主なるエホバは義でありながら、なおイエスを信じる人を義とすることがおできになる。」（ユス・インストラクター 1894年11月29日）

推奨文献：信仰と行い 103-108

日曜日

2月10日

1. 憐れみが救いの手を差し伸べる
 - a. もし神の恵みの御座の基礎の一つが憐れみでなかったら、わたしたちの最初の父祖に、直ちに何が起こったはずですか（創世記 2:16, 17）。

「なぜ〔アダムの〕判決にただちに死刑が執行されなかったのであろうか。それは贖い代が見出されたからである。神のひとり子をご自身に人の罪を引き受け、墮落した人類のための贖罪をなさることを申し出られた。」（ビュー・アンド・ヘルド 1901年4月23日）

- b. 墮落に続いて、憐れみと正義の両方はどのような役割を果たしましたか（ヨナ 4:2; ルカ 6:35（下句））。

「神の忍耐は驚くばかりである。罪人に恵み深い訴えがなされている間に、神の義もまた長く待っている。」（キリストの実物教訓 158）

2. 第二のテスト

- a. 有罪の夫婦に対してただちに死刑宣告の執行がなされる代わりに、神は彼らにどのような希望をお与えになりましたか。アブラハムとバプテスマのヨハネは神聖な身代わりへの信頼を、どのように表現しましたか（創世記 3:15; 22:8; ヨハネ 1:29）。

「〔アダムとエバ〕が、神の律法を犯し、その幸福な無垢の状態から落ちて罪人となったとき、墮落した人類の将来は、一筋の希望もなかった。神は彼らをあわれまれ、キリストが罪をご自身に負われることによって、彼らの救いのための計画を考案された。のろいが地と人の上に宣告されたとき、のろいに関連して、神の律法の違反のためにキリストを通して希望と許しがあるとの約束があった。」（バィブル・コメント [E. G. ホワイトメント] 1 巻 1084）

- b. 罪のための刑罰をご自身に引き受け、罪人を義認することによって、キリストはその罪人のために何をなさいましたか（ヨブ 33:24）。

「正義は罪が単に許されないだけでなく、死刑が執行されなければならないと要求する。神は、ご自分のひとり子という賜物のうちに、これら両方の要求を満たされた。人間の代わりに死なれることにより、キリストは刑罰を排除し、許しを提供された。」（同上 1092）

「〔ローマ 3:24-26 引用〕。ここに真理が明白な文章で述べられている。この憐れみとつくしみ深さは、まったく不相応である。キリストの恵みは罪人の側の功績も権利もなく、罪人を無償で義とする。義認とは十分で完全な罪の許しである。罪人が信仰によってキリストを受け入れる瞬間、その瞬間に彼は許される。キリストの義が彼に着せられ、彼はもはや神の許しの恵みを疑わないのである。」（サイズ・オブ・タイムズ 1898 年 5 月 19 日）

「義認とは魂が聖化と、ひいては聖化を通して、天の生活を得られるように、彼を永遠の刑罰から救うことを意味する。義認とは、死んだわざから清められた良心が聖化の祝福を受けることができる場所に置かれることを意味する。」（バィブル・コメント [E. G. ホワイトメント] 7 巻 908）

3. 父祖たちの生涯における義認

- a. わたしたちの父祖たちに、どのように義認の可能性が明らかされましたか。身代わりを提供するという神のご計画を信じる信仰を、どのように表すべきでしたか（創世記 3:15, 21; 4:4）。

「陰と闇が死のとぼりのように将来にかかっていたが、贖い主の約束の中に、希望の明星が暗い将来を照らした。福音ははじめ、キリストによってアダムに説かれた。アダムとエバは真心から自分たちの罪に対する悲しみと悔い改めを感じた。彼らは神の尊い約束を信じ、完全な墮落から救われた。」(パウル・コムツ[E. G. ホイトコムツ] 1巻 1084)。

「キリストは、御父との相談のうちに、犠牲制度を設立なさった。死がただちに違反者に臨む代わりに、神の御子の大いなる完全な捧げ物を予表する犠牲へと移されるのであった。」(セレテッド・メッセージ 1巻 230)

- b. 贖いの計画の基礎としての正義と憐れみの要求に関して、どのような重要な教訓がアダムとその子孫に与えられましたか。なぜ血のそそぎが不可欠だったのですか（ヘブル 9:22）。

「天使たちは、われわれの祖先に、人間の救いのために考え出された計画をさらにくわしく教えた。アダムとエバは、大きな罪を犯したにもかかわらず、サタンのおすすめのままに放任されてはいないという保証が与えられた。神のみ子が、彼らの罪を贖うために、ご自身のいのちを提供されたのである。彼らに恵みの期間が与えられ、悔い改めとキリストを信じる信仰によって、彼らは、ふたたび、神の子となることができるのであった。」(人類のあけぼの上巻 58, 59)

「多くの人々が、神がユダヤ民族の犠牲制度の中で、これほど多くのほふられた犠牲を要求なさったことに驚きを表現するが、それは血を流すことなしには罪の許しがないという偉大な真理を彼らの思いにしっかりとどめるためであった。教訓は、すべての犠牲において具現化され、すべての儀式において印象づけられ、聖なる職務における祭司によって厳粛に説かれ、神ご自身によって繰り返し教えられた。それは、キリストの血を通してのみ、罪の許しがあるということであった。わたしたちは民として、なんとわずかにしか、この偉大な真理の力を感じていないことであろう。生きた活動する信仰によって、この偉大な真理、すなわち最も小さな罪のための許しと最も大きな罪のための許しがあるという真理をわたしたちの生活に持ち込むことがなんとまれなことであろう。」(ビュー・アソッド・ハルト 1886年9月21日)

4. ユダヤ民族のうちに明示された義認

- a. 主はユダヤ民族が、義認は必然的に有罪宣告を罪人からご自身に移すことになることを理解できるように、どのような実践的な教訓をお与えになりましたか（レビ記 4:4-6, 13-17）。

「毎日、悔い改めた罪人が幕屋の入り口に供え物を持って来て、手を犠牲の頭において自分の罪を告白し、こうして自分の罪を象徴的に自分自身から罪のない犠牲へと移した。それから動物はほふられた。「血を流すことなしには」罪のゆるしはあり得ない、と使徒は言っている（ヘブル 9:22）。「肉の命は血にあるからである」（レビ記 17:11）。破られた神の律法は、罪人の生命を要求した。罪人の失われた生命を表わす血、すなわち犠牲が彼の罪を負って流したものが、祭司によって聖所の中に運ばれ、幕の前に注がれた。幕の後ろには、罪人が犯したその律法を入れた箱があった。この儀式において、罪は、血によって、象徴的に聖所に移された。」（各時代の争闘下巻 131）

- b. 年ごとの贖罪の日によって、どのように義認の真理がはっきりと明示されていますか。罪は比喩的に日ごとの犠牲によって聖所に移されましたが、どれくらいの間、罪人はなお律法の有罪宣告の下にいましたか（レビ記 16:7-10, 15, 16, 20-22）。

「贖罪に関する重要な真理が、この年ごとの務めによって〔イスラエルの〕民に教えられた。一年間にわたってささげられた罪祭によって、罪人に代わるものが受け入れられてきた。だが、いけにえの血が罪に対する完全な贖いを果たしたのではなかった。それは、ただ、罪が聖所に移される手段を提供したにすぎない。罪人は血をささげることによって、律法の権威を認め、律法に違反した罪を告白し、世の罪を除くおかたへの信仰を表明した。だが、彼は律法の宣告から完全に解放されたのではなかった。」（人類のあけぼの上巻 420）

「キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消し去るものではなかった。罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残るのである。そのように象徴においても、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った。」（同上 422）

5. 義認を拒否する結果

- a. 人類歴史において、すぐにどの二つの傾向が発達しましたか。それぞれの種類の感化はどのようなものですか（創世記 4:3-5; コリント第二 2:15, 16）。

「アダムの子らは、神のご要求に関して、人がとった二つの異なる道の最初の実例を示している。アベルは犠牲の捧げ物の中に表わされているキリストを見た。カインは犠牲の必要性に関して不信者であった。彼はほふられた小羊によってキリストが象徴されていることを認識することを拒んだ。獣の血は、彼にとって何の徳もないように思われた。福音はカインにもその兄弟にも同様に説かれた。しかし、彼が犠牲の小羊の血の中に、人間の救いのためになされた唯一の備えであるイエス・キリストを認めなかったがゆえに、彼にとっては死から死に至る香りとなった。」（セクレット・メッセージ 1 巻 231）

- b. 自分たちに差し出された機会を拒んだ人々の経験と運命は、どのようなものですか（テサロニケ第二 2:10-12）。

「罪は不法である。そして今は救うために力強いみ腕は、違反者が神聖な寛容の境界線を越えるとき、罰するのに強くなる。命を求めることを拒む人、すなわち自分の行いにおいて有罪宣告を受けることがないように、何が真理であるかを悟るために聖書を探ろうとしない人は、思いの盲目とサタンの欺瞞のままに取り残される。悔い改めた従順な者が神の愛によってかくまわれるのと同じ程度に、悔い改めない不従順な者は自分自身の無知と心の頑なさの結果のままに取り残される。なぜなら、自分たちの救となるべき真理に対する愛を受けられなかったからである。」（同上 313）

個人的な復習問題

1. アダムとエバが従わなかったとき、彼らの唯一の希望は何にありましたか。
2. 義を満足させながら、かつ神の憐れみをあらわすために、何が備えられなければなりませんでしたが。
3. どの備えが民が許され、あるいは義と認められることを可能にしますか。
4. ユダヤ人にとって絶えざる義認の実物教訓は、何でしたか。
5. 義と認められない人々は、どのような体験をしますか。

行いのない信仰による義認

「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。」(ローマ 5:1)

「神からわたしに与えられた光は、この重要な〔救いという〕主題を、わたしの思いの中で他のどの問題よりも上におく。義認はまったく恵みによるもので、墮落した人間ができるいかなる行いによっても買うものではない。」(信仰と行い 20)

推奨文献：セレクトド・メッセージ 1巻 389-398

日曜日

2月17日

1. 義認の条件

a. 罪人はどの条件によってのみ、義と認められることができますか(使徒行伝 16:31)。

「神が罪人を許し、彼にふさわしい刑罰を免じ、彼をあたかも罪を犯さなかったかのように扱われるとき、このお方は彼を神聖な恩寵へと受け入れ、キリストの義という功績を通して、彼を義とお認めになる。罪人は罪深い世の罪のために犠牲となられた神のいとし子を通してなされた贖罪を信じる信仰を通してのみ、義と認められることができる。だれも自分自身のどんな行いによっても義と認められることはできない。彼はただキリストの苦難、死、そして復活の徳によってのみ、罪の行為から、律法の有罪宣告から、不法の刑罰から救出され得るのである。信仰が、義認を得ることのできる唯一の条件である。そして信仰には信じるだけでなく、信頼することも含まれている。」(彼を知るために 110)

b. 信仰こそ、神が罪人を許し、義と認められる条件です。それはどのように働きますか(マタイ 15:22-28; マルコ 9:20-24)。

「信仰は神が罪人に許しを約束するのにふさわしいと思われた条件である。それは信仰に救いに価する何らかの徳があるからではなく、信仰がキリストの功績、すなわち罪のために備えられた救済策をつかむことができるからである。信仰は罪人の不法と欠点の代わりに、キリストの完全な従順を提示することができる。」(セレクトド・メッセージ 1巻 366, 367)

2. 義認の実例一アブラハム

- a. 義はどのようにアブラハムに着せられましたか。行いは義認を得るのにどのような功績がありますか(創世記 15:1, 5, 6)。

「この主題をはっきりと明白にしよう。すなわち、被造物の功績を通して、神のみ前におけるわたしたちの立場やわたしたちへの神の賜物においてなんらかの影響を及ぼすことは不可能だということである。信仰と行いがだれかのために救いという賜物を買うならば、そのとき創造主は被造物に対する義務の下におられることになる。ここに偽りが真理として受け入れられる機会がある。もしだれかが自分のなすことのできる何かによって救いに価することができるのであれば、彼は自分の罪のために自己処罰を行うカトリックと同じ立場にいることになる。救いはそのとき、部分的な負債であって、報いとして稼ぐことができることになる。もし、人が自分のいかなる良い行いによっても救いに価することができないとすれば、そのときそれは完全に恵みによるものであり、人は罪人として、イエスを受け入れ信じるがゆえにそれを受けなければならない。それは完全に無償の賜物である。信仰による義認は議論を超越している。そして墮落した人間の良い行いにおける功績は決してその人のために永遠の命を手に入れることはできないという問題が決着すればただちに、このすべての議論は終わるのである。神からわたしに与えられた光は、この重要な〔救いという〕主題を、わたしの思いの中で他のどの問題よりも上におく。義認はまったく恵みによるもので、墮落した人間ができるいかなる行いによっても買うものではない。」(信仰と行い 19, 20)

- b. アブラハムの経験に基づいて、どのように義は罪人に着せられますか(ローマ 4:1-8)。

「義は律法への従順である。律法は義を要求する。そしてこれを罪人は律法に対して負っているが、それを返すことができない。彼が義を得ることのできる唯一の方法は、信仰を通してである。信仰によって、彼はキリストの功績を神の許へたずさえることができる。そして主はご自分の御子の従順を罪人の勘定に置かれるのである。キリストの義は人間の失敗の代わりに受け入れられる。そして、神は悔い改めた信じる魂を受け入れ、許し、義と認め、彼をあたかも義なる者であるかのように扱い、ご自分の御子をお愛されるように彼をお愛されるのである。これがいかに信仰が義と認められるかである。そして許された魂は恵みから恵みへ、光からさらに大いなる光へと進む。彼は喜んで、『わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊により新たにされて、わたしたちは救われたのである。この聖霊は、わたしたちの救主イエス・キリストをとおして、わたしたちの上に豊かに注がれた。これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである』と言うことができる(テトス 3:5-7)。」(セクレット・メッセージ 1巻 367)

3. 長血をわずらっていた女

- a. 主がヤイロの家に向かっているとき、道中で何が起こりましたか（マルコ 5:22-27）。

「イエスが通りすぎようとされると、〔長血をわずらっていたあわれな女〕は前へのり出して、イエスの衣のへりにかすかにさわることができた。それでもその瞬間、彼女は、自分がいやされたことがわかった。一度だけさわること、彼女の一生の信仰が集中されていた。するとたちまち、彼女の痛みと弱さは完全な健康の力にかわった。……

救い主は不注意な群衆が偶然さわったのと、信仰をもってさわったのとを区別することがおできになった。このような信頼を、何にも言わないで、みすごすわけにいかなかった。イエスは、このいやしい女によるこびの泉となるような慰めのことば—イエスに従う者にとって世の終りまで祝福となるようなことばを語りたいたいと思いいになった。……

いやしの力をただイエスの衣にさわる行為だけに求める迷信の余地を、イエスはお与えにならなかった。いやしが行われたのは、イエスとの外面的な接触によってではなくて、イエスの天来の力にすぎる信仰によってであった。」（各時代の希望中巻 72, 73）

- b. 何が、群衆の中にいた普通の人々が偶然さわったのと、病気の女がこのお方の衣にさわったことに違いを生じさせたのですか（マルコ 5:28-34）。

「イエスの周りにひしめき合っていた驚いている群衆は、接触しても何の命の力を得たとも感じなかった。しかし、この哀れな苦しむ女、すなわち12年病人であった者が自分の最大の必要の中でその手を伸ばし、このお方の衣のすそにふれたとき、彼女はいやしの力を感じた。彼女の接触は信仰の接触であり、キリストはその接触を認められた。このお方はご自分から力が出て行ったことをご存じであった。……わたしたちにキリストとの生きたつながりを得させる信仰は、わたしたちの側で、最上の優先、完全な信頼、全的献身を表現する。この信仰は愛によって働き、魂を清める。それはキリストに従う者の生活の中に神の戒めへの真の従順を成し遂げる。なぜなら、神への愛と人への愛が、キリストとの生きたつながりの結果だからである。」（ヘレテッド・メッセージ 1巻 334）

4. 中風患者のいやし

- a. 主のご命令に対して、この中風患者はどのような反応をしましたか。わたしたちは彼の例から何を学ぶことができますか(ヨハネ 5:1-9)。

「イエスが病人をおいやしになったという簡単な聖書の記録から、わたしたちは罪のゆるしをえるためには、どのようにしてこのお方を信じればよいかを幾分知ることができる。ベテスダの中風患者のことを考えてみよう。哀れな病人は、38年もからだの自由を失っていたのである。しかしイエスは、『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい』と言われた。この病人は、『主よ、もしわたしをいやしてくださいならばみ言葉に従います』とも言えたであろう。しかしかれは、キリストのみ言葉を信じ、自分がいやされたと信じてすぐに立って歩こうとした。歩こうとしたときに実際に歩くことができたのである。かれはキリストのみ言葉に頼って行動したので、神は彼に力を与え、彼はすっかりいやされたのである。」(キリストへの道 64)

- b. 健康へと回復された中風患者のどの模範にわたしたちは従うべきですか(マルコ 11:24)。

「同様に、あなたも罪人である。あなたは自分の過去の罪をあがなうことも、自分の心を変えることも自分自身を聖なる者にすることもできない。しかし神は、こうしたことをすべてキリストを通してしてくださいとお約束なさった。あなたはそのみ約束を信じ、罪を告白し、自らを神にささげ、神に仕えることを決意するのである。これを実行しさえすれば必ず神はそのみ約束を果してください。神のみ約束を疑わず、ゆるされ、きよめられたと信じさえすれば、神はそれを事実としてくださる。中風の病人がいやされたことを信じたとき、キリストが歩く力をお与えになったと同じようにあなたはいやされるのである。信ずるごとくなるのである。.....

いやされたと感じるまで待つてはならない。そして『信じます。そのとおりです。私がそう感じるからではなく、神がこれを約束されたからです』と言いなさい。.....

「[マルコ 11:24 引用]。このみ約束には条件が一つある。それは神のみ旨に従って祈るということである。しかし、わたしたちの罪をきよめ、神の子らとしてきよい生活を送らせようとなさるのは神のみこころである。であるから、これらの祝福を願い求め、それを受けたと信じて神に感謝してもよいのである。イエスのもとにきてきよめられ、恥ずることも良心の呵責もなく律法の前に立つことができるのはわたしたちの特権である。聖書にも『こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない.....これは.....肉によらず霊によって歩く』(ロマ 8:1, 4) とある。」(同上 65, 66)

5. 信仰を働かせる

- a. 信仰を受けるために、わたしたちはどこを見なければなりませんか。何のために、それは与えられるのですか（ヘブル 12:2; ヨハネ 6:29）。

「罪人は、自分自身を救うことはできないが、救いを得るためには、彼のなすべきことがある。『わたしに来る者を決して拒みはしない』とキリストは言われる（ヨハネ 6:37）。われわれは、彼のところに来なければならない。そして、罪を悔い改めるときに、キリストはわれわれを受け入れ、ゆるしてくださることを信じなければならない。信仰は、神の賜物である。しかし、信仰を働かせる力は、われわれに与えられている。信仰は神の恵みとあわれみの招待を、魂が把握する手である。」（人類のあけぼの下巻 34, 35）

- b. パウロはどのように信仰を説明していますか。証の書にはさらにどのような説明がありますか（ヘブル 11:1-3）。

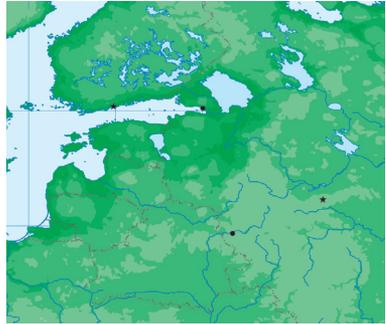
「信仰はわたしたちの救いの基盤ではないが、大きな祝福一見するための目、聞くための耳、走るための足、つかむための手—である。それは手段であって、目的ではない。もしキリストが罪人を救うためにご自分の命を下されたのであれば、わたしはなぜその祝福を受けとらないで良いであろうか。わたしの信仰はそれをつかむ。こうして、わたしの信仰は望んでいる事柄の実体となり、まだ見ていない事実の証拠となる。こうして安んじ、信じて、わたしは主イエス・キリストを通して、神との平和を得る。」（パイブル・コメンタリ [E. G. 初作コメン] 6 巻 1073）

個人的な復習問題

1. 義と認められるためには、何が必要ですか。
2. 義認が行いによって得られるものではないことを、どのように示すことができますか。
3. イエスに押し寄せていた人々の間にいた女の経験から、どのような教訓を学ぶことができますか。
4. 何が病気の男に祝福を受けさせ、またわたしたちにも祝福を受けさせることができますか。
5. わたしたちはどのように信仰を受け、そこから恩恵をこうむることができますか。

第一安息日献金

ロシアのサンクト・ペテルブルクのために



サンクト・ペテルブルクは、ロシアの第二の都市です。それは文化的なロシアの「北の」首都であり、主要な観光中心地のひとつです。北のベネチアというのが、サンクト・ペテルブルクの象徴的な肩書きの一つです。内陸の水は、この都市の領域のおよそ10%を覆っています。この都市の人口

は500万人です。サンクト・ペテルブルクには268の宗派と宗教的な組織があり、主にクリスチャンですが、ロシア・オーソドックス教会が主流です。改革のメッセージがサンクト・ペテルブルクに伝えられたのは1960年代でした。多くのさまざまな兄弟がこの場所を訪れ、命をかけて福音を宣布しました。なぜなら、当時旧ソビエト社会主義共和国連邦では厳しい状況だったからです。

最近、若い働き人がサンクト・ペテルブルクに派遣され、後に長老として接手を受けました。今やそこにはこの大きな都市に小さな教会があります。しかし、この北の地域でのさらなる働きが発展のために、わたしたちは人々と礼拝し、集会をするなんらかの場所が必要です。働き人と礼拝のためのアパートの賃借料は非常に高いです。そのため、わたしたちは礼拝と伝道プログラムのために自分たち自身の建物が必要です。わたしたちはある程度の金額を集めましたが、礼拝堂の建設のために適切な一角の土地を望んでいます。しかし、わたしたちの手元にあるものは、このプロジェクトのために不十分です。

「ヨーロッパにおいて真理を提示する人々には大きな働きが委ねられている。……オランダ、オーストリア、ルーマニア、トルコ、ギリシャ、そしてロシア、すなわち何百万もの、神の御目にはわたしたちと同様に尊く、この時代のための特別な真理は何も知らない魂の本拠地がある。」(伝道 408)

世界中のすべての信徒の皆さんに、誠心より、このサンクト・ペテルブルクにおけるプロジェクトのための惜しみない献金をお願いいたします。

皆さんの惜しみない心感謝します。主がたしかに皆さんを豊かに祝福してくださいませ。

ロシアの皆さんの兄弟姉妹より

義とする信仰

「わたしたちの父祖アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげた時、行いによって義とされたのではなかったか。あなたが知っているとおりに、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ、こうして、『アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた』という聖書の言葉が成就し、そして、彼は『神の友』と唱えられたのである。」(ヤコブ 2:21-23)

「義とする信仰はいつも悔い改めを産出し、それから信仰の実である良いわざを結ぶ。」(わたしたちの高い召し 52)

推奨文献：セレクト・メッセージ 1巻 377-382

日曜日

2月24日

1. 危険な考えが露呈する

- a. 信仰と行いの提示におけるどのような調和の取れていない見解を、主の僕は正そうとしましたか。

「わたしは集会に出席していた。そして多くの信徒たちが出席していた。わたしの夢の中で、あなたは信仰と信仰によって着せられるキリストの義の主題を提示していた。あなたは数回、行いは何にもならない、そこに条件はないと繰り返していた。その問題は、人々の思いが確かに混乱させられ、信仰と行いについて正しい印象を受けないとわかるような光のうちに提示された。そこでわたしはあなたに手紙を書くことを決めた。あなたはこの問題をあまりにも強く述べている。わたしたちが義認と聖化、そしてキリストの義を受けるのには条件がある。わたしはあなたが何を言いたいかはわかるが、あなたは多くの人々の思いに誤った印象を残している。良い行いは一人の魂でさえ救わないが、なお一人として良い行いなしに救われることもない。」(セレクト・メッセージ 1巻 377)

- b. 永遠の命の条件に関して、聖書からどのような光を受けることができますか (マタイ 19:16, 17, 20, 21)。

2. うわべだけの信仰の不十分さ

- a. パウロは神に従うと公言する人々のうわべだけの信仰が不十分であることを、どのように説明していますか（ローマ 10:2, 3）。彼らはどのような種類の信仰が必要ですか（ローマ 10:10）。

「救いに至る信仰は、うわべだけの信仰ではない。それは単に知性の同意ではない。それは心の中に根ざした信念であり、キリストを個人的な救い主として心に受け入れ、このお方がご自分によって神に来るすべてのものを最高にまで救うことがおできになることを確信していることである。このお方は他の人々を救われるが、あなたは救ってくださらないと信じることは、本物の信仰ではない。」（ヘレテッド・メッセジ 1巻 391）

「キリストの義を着せることは、義とする信仰を通してもたらされ、パウロは義認のためにあれほど熱心に主張しているのである。」（同上 397）

- b. わたしたちがうわべだけの信仰しか持っていないか、あるいは義とする信仰を持っているかは、何が示しますか（ヤコブ 2:18）。

「しかし、〔信徒〕がキリストの功績のゆえに義と認められるからといって、彼は不義を自由に行うべきではない。信仰は愛によって働き、魂を清める。信仰はつぼみをつけ、花を咲かせ、尊い実の収穫を実らせる。信仰のあるところには、良い行いが現われる。病人は訪問され、貧しい人は顧みられ、孤児ややもめはなごりにされず、裸の者は着せられ、困窮している者は養われる。キリストは良い行いをしながら巡回された。そして人々がこのお方と一致するとき、彼らは神の子らを愛し、柔和と真理が彼らの足を案内する。顔の表情が彼らの経験を表わし、人々は彼らがイエスと共にいて、このお方から学んだ者であることを知る。」（同上 398）

「律法的でうわべだけの信仰を持っている人々が多くいる。彼らは名目的にはキリストを世の救い主として受け入れたが、自分たちの心のうちに、このお方が彼らの個人的な救い主であられること、彼らの罪を許してくださったこと、彼らがあらゆる光の源であられる神との生きたつながりを持っていることの証拠がない。あなたは、自分自身の心がこのお方の愛で満たされない限り、イエスとその義を他の人々に教えることも、このお方の比類のない愛を描写することも、このお方の満ちみちた恵みも、クリスチャンのすべてのすべてであり、人の慰め主であり導き手としてのこのお方を描くこともできない。あなたは『わたしは主がいつくしみ深いことを味わい知りました』と言えるまでは、憐れみと愛の神として、このお方を提示することはできない。」（サイン・オブ・タイムズ 1889年9月2日）

3. 義とする信仰

- a. いつ罪人は信仰によって義とされますか。魂はどの条件の下に保たれるべきですか (使徒行伝 16:30, 31)。

「あなたは自分の罪を告白して、心よりこれを捨て去り、神に自らをささげようと決心した。であるから今、神のもとに行き罪を洗い去って新しい心を与えてくださるようお願いなさい。」(キリストへの道 63)

「神の御前に深く悔いた罪人が、自分のためのキリストの贖罪を認め、この贖罪を今の生活とこれからの生活の唯一の希望として受け入れるとき、彼の罪は許される。これが信仰による義認である。すべての信じる魂は、自分の意志を全く神のみ旨に順応させ、贖い主の贖罪の功績を信じる信仰を働かせ、力から力へ、栄光から栄光へと前進することによって、悔い改めと悔悟の状態を保たなければならない。」(パイプ・コメンタリ [E. G. ホットコメント] 6 巻 1070)

- b. 使徒パウロは、義認を可能とする信仰をどのように描写しましたか (ガラテヤ 5:6)。

「人を救う信仰は、キリストを受け入れる者が神との契約関係にはいる一つの取り引きである。真の信仰はいのちである。生きた信仰とは、活力と信頼心とが増し加わり、それによって魂が勝利する力となることを意味する。」(各時代の希望中巻 75)

- c. この信仰はそれをもつ者に何をなしますか (マタイ 21:21)。

「魂がキリストを救いの唯一の希望としてつかむとき、そのとき本物の信仰が表される。この信仰はそれを持つ人を、魂のすべての愛情をキリストにおくように導く。彼の理解力は聖霊の支配下にあり、彼の品性は神聖なみかたちに従ってかたちづくられる。彼の信仰は死んだ信仰ではなく、愛によって働く信仰であり、キリストのうるわしさを眺めて、神聖なご品性に同化するように彼を導く。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 391, 392)

4. 義とする信仰の実例

- a. アブラハムは、うわべだけの信仰ではなく、義と認められる信仰をもっていたことを、何が証明しますか(ヤコブ 2:21-23)。

「使徒ヤコブは、信仰による義認の主題を提示する際の危険を見た。そして彼は本物の信仰はそれに見合った行いなしに存在することはできないことを示すために労した。アブラハムの経験が提示されている。『信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ』と彼は述べている。こうして本物の信仰は、信徒のうちに本物の行いをなす。信仰と従順は、しっかりした価値のある経験をもたらす。

救う信仰ではない信条がある。み言葉は悪霊どもが信じておののいていると宣言している。愛によって働かず、魂を清めないいわゆる信仰は、だれをも義と認めない。……アブラハムは神を信じた。わたしたちはどのようにして彼が信じたことがわかるだろうか。彼の行いは彼の信仰の性質を証した。そして彼の信仰は彼にとって義と認められた。」(パイブル・コメント [E. G. ホイトコメント] 7 巻 936)

- b. イエスはしばしば、信仰によって義とされたことを生活に表している人々にさえ、どのような明白な教えを繰り返されましたか(ヨハネ 5:14)。

「わたしたちにキリストとの生きたつながりを得させる信仰は、わたしたちの側で、最上の優先、完全な信頼、全的献身を表現する。この信仰は愛によって働き、魂を清める。それはキリストに従う者の生活の中に神の戒めへの真の従順を成し遂げる。なぜなら、神への愛と人への愛が、キリストとの生きたつながりの結果だからである。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 334)

「神が心のうちに働いてくださり、人が自分の意志を神に明け渡して、神に協力するとき、神が聖霊によって内に働いて下さることを、彼は生活において外に働く。そしてそこには心の目的と生活の実践の間に調和がある。すべての罪は、命と栄光の主を十字架につけた憎むべきものとして捨てられなければならない。そして信徒は、絶えずキリストのわざをなすことによって、進歩的な経験を得なければならない。義認の祝福が維持されるのは、継続的な意志の明け渡しと継続的な従順によってである。」(同上 397)

5. 真の信仰の例示

- a. 真の真珠を得るために商人は、何を犠牲にする用意がありましたか。真の真珠によって何が表されていますか (マタイ 13:45, 46)。

「キリストの義は、純粋な白真珠のように、しみも傷もない。どんな人間の技術をもってしても、この偉大で尊い神の賜物をそれ以上にすぐれたものにはできない。それには、一つとしてきずがない。キリストの中には『知恵と知識との宝が、いっさい隠されている』(コロサイ 2:3)。」(キリストの実物教訓 92)

- b. なぜ多くの人々はこの大なる真珠、すなわちキリストの義を見出さないのですか (黙示録 3:17)。

「ある人びとは、つねに、天の真珠を求めているように見えるけれども、彼らは、自分たちの悪習慣を全く放棄していない。彼らは、キリストが彼らの中に生きてくださるために自己に死ぬことをしない。彼らが高価な真珠を見いだすことができないのはそのためである。彼らは、まだ、汚れた野心や世の快樂を愛する心に勝利していない。彼らは、キリストにならって十字架をとって、克己と犠牲の道を歩かない。九分通りクリスチャンではあるが、完全なクリスチャンになっていない。天国に近いようではあるが、天国にはいることはできない。完全ではなくて、九分通り救われていることは、九分通り失われていることではなくて、完全に失われていることである。」(キリストの実物教訓 95)

個人的な復習問題

1. わたしたちは自分の行いによって救われることはありませんが、信仰によって義とされた人の生活には何が見られるようになりますか。
2. 何が真の信仰と名目的信仰の相違を表しますか。
3. 本物の信仰は、それを持つ人に何をなしますか。
4. 信仰と行いの間にはどのような重要な関係が存在しますか。
5. クリスチャンだと思われる人々にとって、大きな危険は何ですか。

ちに伏させられる人間の栄光

「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。」(エペソ 2:8)

「人はまったく神の恵みに依存している。人には神の御霊が自分を引き寄せてくださらない限り、キリストの方向へ一歩たりとも動く力がない。」(サインズ・オブ・タイムズ 1894年2月12日)

推奨文献：キリストへの道 13-21

日曜日

3月3日

1. 神のわざ

- a. 信仰による義認は、わたしたちのうちに、またわたしたちのために、何をなすことができますか(ローマ 3:24, 25; エペソ 2:8)。

「信仰による義認とは何か。それは人間の栄光をちに伏させ、人が自分自身のために自分の力ではできないことを、人のためになして下さる神のわざである。人が自分自身の無価値さを見るとき、キリストの義によって覆われる用意ができる。」(信仰によってわたしは生きる 111)

- b. 主イエスは使徒ヨハネにどのようにご自身を表わされましたか。これは救いの働きに関して何を意味していますか(黙示録 21:6)。

「聖霊が人の心に働きかけてくださらない限り、わたしたちは一歩ごとにつまずき、倒れる。人の努力だけでは、無価値以外の何物でもない。しかしキリストとの協力は勝利を意味する。自分自身では、わたしたちは罪を悔い改める力はない。わたしたちが神聖な援助を受け入れない限り、救い主に向かって最初の一步を踏み出すことができない。このお方はすべての魂の救いにおいて『わたしは、アルパでありオメガである。初めてであり終りである』と言われる(黙示録 21:6)。」(セラケッド・メッセージ 1巻 381)

2. 招き、悔い改め、許し

a. 何が魂の救いにおける第一歩ですか。魂が招きを受け入れるとき、なぜその人はキリストの許へ行くのですか(ヨハネ 12:32; 14:6)。

「召しと義認は一つのことでも同じことでもない。召しとは、罪人をキリストへ引き寄せることであり、それは聖霊によって心に働きかけてくださる罪を自覚させ、悔い改めに招くわざである。

多くの人は、何が救いのわざにおける最初の一步を構成しているかについて混乱している。悔い改めは、罪人がキリストの許へ来ることができるために、自分で行わなければならない行いだと考えられている。彼らは罪人が自分で神の恵みという祝福を得るための資格を得なければならないと考える。しかし、神に受け入れられるのは、悔い改めただけであるから、悔い改めが許しに先立たなければならないのは事実であるが、罪人は自らを悔い改めに導いたり、キリストの許へ来るために自ら備えたりすることはできない。罪人は悔い改めない限り、許されることはできない。しかし、決定すべき問題は、悔い改めが罪人の行いであるか、キリストの賜物であるかに関してである。罪人はキリストのみ許へ来る前に自分の罪に対する深い悔恨に満たされるまで待たなければならないのであろうか。キリストへのいちばん最初の第一歩は、神の御霊の引き寄せる働きを通して取られる。人がこの引き寄せる働きに応じるとき、彼は悔い改めるためにキリストに向かって前進するのである。」(レクテッド・メッセージ 1巻 390)

b. 罪人のうちにおける悔い改めの働きの本当の起源はどこにありますか(テモテ第二 1:9; 使徒行伝 5:31)。

「悔い改めは許しと同様にキリストの賜物である。そしてそれはイエスが働いておられない心には見出すことができない。わたしたちはキリストなしに許されることができないのと全く同じように、キリストの御霊なしに悔い改めて良心を目覚めさせることはできない。」(バイブル・コメント [E. G. ホイトコメント] 6巻 1056)

「わたしたちが罪を自覚し、許しの必要を感じるのは聖霊の感化を通してである。悔いる者以外はだれ一人として許されることはない。しかし、神の恵みが心を悔いさせるのである。」(レクテッド・メッセージ 1巻 353)

「悔い改めは許しや義認と全く同様に神の賜物であり、キリストによってそれが魂に与えられない限り、それを経験することができない。もしわたしたちがキリストに引き寄せられるなら、それはこのお方の力と徳を通してである。悔い改めの恵みはこのお方を通してもたらされ、このお方から義認がもたらされるのである。」(同上 391)

3. 信仰：神の憐れみの現れの働き

a. 信仰の定義は何ですか。その源は何ですか（ヘブル 11:1）。

「信仰とは神に信頼すること、すなわち神がわれわれを愛し、われわれの幸福にとって最善であるものをご存知であることを信じることである。そのときわれわれは自分自身の道を選ばず、神の道を選ぶようになる。信仰によってわれわれは、無知の代わりに神の知恵を受け入れ、弱さの代わりに神の力を、罪の代わりに神の義を受け入れる。われわれの生命、われわれ自身がすでに神のものである。信仰は神の所有権をみとめ、その祝福を受け入れる。真実と誠実と純潔は人生の成功の秘訣としてさし示されている。これらの原則をわれわれに所有させるのが信仰である。」（教育 299）

「信仰はわたしたちのために何も稼がない。それは神の賜物であって、わたしたちはキリストを自分の個人的な救い主とすることによって受け、抱くことができる。わたしたちは賜物を拒み、疑いを語り、不信を抱くことによって不幸になることもできる。しかし、これは越えることのできない障壁へと成長し、わたしたちを神の御霊から締め出し、わたしたちの心をこのお方の光と愛に対して閉ざす。」（パイブル・コメント [E. G. ホイトコメント] 6 巻 1080, 1081）

b. 神の憐れみのない罪人の状態は何ですか（ガラテヤ 5:19-21）。

「キリストの恵みがなければ、罪人は希望のない状態であり、彼のためにできることは何もない。しかし、神聖な恵みを通して、超自然な力が人に与えられ、思いと心と品性のうちに働く。罪がその憎むべき性質の内に識別され、ついには魂の宮から追い払われるのは、キリストの恵みを与えられることを通してである。わたしたちがキリストとの交わりに入れられ、救いの働きにおいてこのお方と結びつけるのは、恵みを通してである。」（セレクトド・メッセージ 1 巻 366）

「あなたは自分が罪びとだから神から祝福を受ける望みがないとでもお思いになるだろうか。キリストは罪びとを救うためにこの世においてになったのだということを覚えなさい。自分自身を神に推薦するようなものは何もない。わたしたちがいつも訴えることのできる願いは、キリストのあがないの力を必要としている自分の完全に無力な状態である。わたしたちは、自己信頼の念をいっさい捨てて、カルバリーの十字架をながめ、『わが手には何も価値あるものをたず、ただ、なんじの十字架にすがらだけである』と言うことができる。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 40）

4. 聖霊の働き

- a. どのような心の状態が、罪人を救うために主がご自分の御霊によって働いておられる証拠ですか（マタイ 5:6）。

「あなたは自分の魂の内に欠乏感を持っているであろうか。あなたは義に飢え渴いているであろうか。そうであれば、それはキリストがあなたの心に働きかけ、この必要感を創造しておられる証拠である。それは、あなたが自分で自分のためになし得ないことをご自分の聖霊を授けることを通してあなたのためにして下さるようにキリストを求めるためである。主はあなたがご自分の憐れみに飢え渴き、このお方の勧告を望み、このお方の愛を切望すること以外に何の条件も指定しておられない。「求めよ」。求めることは、あなたが自分の必要を自覚していることを表す。そして、もしあなたが信仰のうちに求めるならば、あなたは受けるのである。」（ヘレック・メッセージ 1 巻 332）

- b. どこから、人は救出されますか。またどこへ導かれますか（コロサイ 1:12, 13; ペテロ第一 2:9）。

「主はご自分の民が信仰において健全であることを望んでおられる。すなわち、これほど豊かに彼らのために備えられている偉大な救いについて無知でいてもらいたくないのである。彼らはいつか将来彼らのために偉大な働きがなされると考えて、前途を見るべきではない。なぜなら、働きは今完成しているからである。信徒は、神と和らぐように求められているのではない。彼は決して求められたことがないし、できもしない。彼は自分の平和としてキリストを受け入れなければならない。なぜなら、キリストと共に神と平和があるからである。キリストは罪の重いのろいを木の上にご自分の身に受けて、罪に終わりを告げられた。そしてこのお方は個人的な救い主としてご自分を信じるすべての人からこののろいを取り除かれた。このお方は心の中の罪の支配力に終わりを告げられる。そして信徒の生活と品性はキリストの恵みの真の性質を証するのである。」（同上 394, 395）

「神はご自分の信じる民を愛しておられる。そしてこのお方は彼らの足を安全で確かな道におかれた。このお方は彼らがキリスト・イエスと共に天国に座するようにされた。このお方がそうなさったのは、彼らの善や価値のゆえではなく、このお方の恵みの無償のうながしのゆえであり、このお方が憐れみに富んでおられるからであり、彼らを受えられるこのお方の大いなる愛のゆえである。このお方は彼らを闇の権力から救出され、ご自分の愛しい御子の王国へ移された。このお方は彼らをご自分の前に立つことができるように品性をきよめ、白くし、完成させることを非常に望んでおられる。」（サインズ・オブ・タイムズ 1901 年 8 月 28 日）

5. 完成された働き

- a. 天の相続人となるために、わたしたちが到達しなければならない標準は何ですか。これはどのようになされますか (ルカ 10:27)。

「天の候補者として、わたしたちは律法の要求に応じなければならない。『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。また、自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ』 (ルカ 10:27)。わたしたちは信仰によってキリストの義をつかむときにはじめてこれができる。イエスを眺めることによって、わたしたちは心の中に生きた拡張する原則を受け、聖霊が働きを続け、信徒は恵みから恵みへ、力から力へ、品性から品性へ前進する。彼はキリストのみかたちへと順応し、ついに霊的な成長において、キリスト・イエスにおける満ちみちた徳の高さにまで至るのである。」 (セレクト・メッセージ 1 卷 395)

- b. どのように信徒のうちに救う働きが完成しますか (ピリピ 1:6; ローマ 8:30)。

「ご自分に求める者に、イエスは聖霊をお与えになる。なぜなら、すべての信徒がのろいと律法の有罪宣告からと同様に、汚れから救出される必要があるからである。聖霊の働き、すなわち真理の聖化を通して、信徒は天の宮にふさわしいものとされる。なぜなら、キリストがわたしたちのうちに働かれ、このお方の義がわたしたちの上にあるからである。これなしには、一人の魂も天への資格を得ることはない。わたしたちは聖霊の感化とキリストの義によってその聖なる雰囲気¹にふさわしいものとされないかぎり、天国を楽しむことはない。」 (同上)

個人的な復習問題

1. 義認の働きと救いはまったくキリストにかかっていることを何が示しますか。
2. 救いにおける段階の違いをわかりやすく述べなさい。
3. 神の憐れみは、悔い改める罪人のうちに、どのような変化をなしとげますか。
4. 聖霊によって、どのような役割が果たされますか。
5. 救いの働きの完成は何ですか。

神と共に働く

「わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:12, 13)

「救いの働きにおいて、神は人との協力を要求なさる。クリスチャンは精力的な努力を払わなければならない。そうすれば、神は人間の努力に神聖な恵みを結合して下さる。」(ビュー・アンド・ハルド 1888 年 10 月 30 日)

推奨文献：キリストへの道 22-44

日曜日

3月10日

1. 救いの働きにおける罪人の役割

- a. 救いの働きにおいて、神は魂から何を期待しておられますか。どれくらいの間ですか (ルカ 13:24)。

「勝利するという偉大な働きにおいて、人にはほとんど、あるいは何もすることがないという考えを提示してはならない。……最初から最後まで、人は神との共労者となるべきである。」(セクレット・メッセージ 1 巻 381)

- b. 自分の救いの達成において、人のなすべき分は何ですか。このことにおいて、何が明らかであるべきですか (ピリピ 2:12, 13)。

「神が心のうちに働いてくださり、人が自分の意志を神に明け渡して、神に協力するとき、神が聖霊によって内に働いて下さることを、彼は生活において外に働く。そしてそこには心の目的と生活の実践の間に調和がある。すべての罪は、命と栄光の主を十字架につけた憎むべきものとして捨てられなければならない。そして信徒は、絶えずキリストのわざをなすことによって、進歩的な経験を得なければならない。義認の祝福が維持されるのは、継続的な意志の明け渡しと継続的な従順によってである。」(同上 397)

2. 聖霊に屈服する

a. 自分の改心において罪人の最初の一步は何ですか(ヨハネ 6:37)。

「キリストは世に神の愛を表し、すべての人の心をご自分に引き寄せるために来られた。このお方は、『わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう』と言われた(ヨハネ 12:32)。救いに向かう最初の一步は、キリストの愛の引き寄せに応えることである。」(ヘレテッド・メッセジ 1巻 323)

b. どのすばらしい招きが救いに向かう最初の一步へと導くべきですか(黙示録 22:17)。

「自然界にも働いているこの同じ神のみ心は、人の心に呼びかけ、人が持ち合わせていない何ものかに対する表現しがたい渴望を起させる。この世のものではどうしても彼らの渴望を満たすことはできない。神のみたまは心に真の平安を与えうる唯一のものであるキリストの恵みと、きよめの喜びを求めように訴えている。わたしたちの救い主は、絶えず見える見えないにかかわらず、さまざまな力を用いて、満足のない罪の快楽を離れキリストによって与えられる限りない祝福を求めよう、わたしたちの心に働いておいでになる。この世のかわきぎった泉のほとりで飲もうとしても飲むことのできない人々に、み言葉は、『かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい』(黙示録 22:17)と呼びかけている。」(キリストへの道 30, 31)

「渇いている魂へのキリストの叫びはなおも響いている。そして祭りの最終日に宮で聞いていた人たちに対するよりもさらに大きな力をもってわたしたちに訴えている。泉はすべての人に開かれている。疲れ果てている人々には永遠の命という清新的な水が提供されている。」(サイン・オブ・タイムズ 1897年9月23日)

「この世の泉でかわきをいやそうとする者は、飲んでみてもすぐにまたかわくだけである。どこでも人々は満足していない。彼らは魂の必要を満たすものを求めている。その足りないところを満たすことのできるおかたはひとりしかない。世の必要、『万国の願うところのもの』はキリストである(ハガイ書 2:7 文語訳)。キリストだけがお与えになれる神の恵みこそ、魂をきよめ、清新にし、活気づける生ける水である。」(各時代の希望上巻 221)

3. 神と共に働く罪人

- a. 主が悔い改めという賜物を与えて下さるとき、何がまじめな魂の経験となりますか(ヨハネ第一 1:9; 詩篇 51:17)。

「しかし、罪を悔い改めるにあたって、わたしたちはルターがしたように、神の恩寵を得ようとして、独房の中に入って、自分たちの悪を償うために自己処罰を課したりする必要はない。次の質問がなされている、『わがとがのためにわが長子をささぐべきか。わが魂の罪のためにわが身の子をささぐべきか。人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか』(ミカ 6:7, 8)。詩篇記者は言っている、『神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられません。』(詩篇 51:17)。ヨハネは記している、『もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる』(ヨハネ第一 1:9)。罪の許しを受けていない唯一の理由は、わたしたちが自分の不法によって傷つけたお方、自分の罪によって刺し通したお方に、自分たちが誤っており、憐れみを必要としていることを認めてこなかったからである。魂の奥底から注ぎ出された告白は、無限の憐れみの心へと道を見出す。なぜなら、主は砕けた心の者に近く、悔いた霊を持つ者を救われるからである。」(ヘレグッド・メッセージ 2 巻 326)

「キリストの義を得るために、罪人は思いと霊と行動に、根本的な変化をもたらす悔い改めが何かを知る必要がある。」(同上 393)

- b. もしわたしたちが自分たちの信仰を正しく働かせるならば、それはわたしたちのうちにどのように働きますか(ガラテヤ 5:6)。

「あなたがキリストの引き寄せる力に応じて、自らをこのお方に結びつけるとき、あなたは救う信仰を表している。宗教的な事柄を無頓着に話したり、本当の魂の渇きや生きた信仰なく霊的な祝福を求めて祈ったりしても得るものはほとんどない。……わたしたちにキリストとの生きたつながりを得させる信仰は、わたしたちの側で、最上の優先、完全な信頼、全的献身を表現する。この信仰は愛によって働き、魂を清める。それはキリストに従う者の生活の中に神の戒めへの真の従順を成し遂げる。なぜなら、神への愛と人への愛が、キリストとの生きたつながりの結果だからである。」(同上 1 巻 334)

4. 意志を神のみ旨に屈服させる

- a. 聖霊は心のうちにどのような種類の働きをなしたいと望んでおられますか。このお方はそれをどのように完成させることができますか (ヨハネ 3:3, 5)。

「信仰を通して、聖霊は心の中に聖潔を創造するために働いている。しかし、これは人間の代理人がキリストと共に働かない限りなし得ない。わたしたちは心に働きかける聖霊の働きを通してのみ天にふさわしい者とされることができる。なぜなら、わたしたちは御父への道を見出したければ、自分たちの資格としてキリストの義を持たなければならないからである。わたしたちがキリストの義を得ることができるために、日ごとに聖霊の感化力によって変えられ、神聖にあずかる者となる必要がある。嗜好を高め、心を聖化し、人全体を高尚にするのは、聖霊の働きである。」(ヘレテッド・メッセージ 2 巻 374)

- b. 聖潔を新たにし、わたしたちを天にふさわしい者とするために、主は何を要求しておられますか。わたしたちは何を愛し、何を憎むべきですか (箴言 23:26)。

「神がわたしたちを新たにし、聖化し、そしてわたしたちをこのお方の天の宮にふさわしい者としてすることがおできになるように、わたしたちの心を神に明け渡さなければならぬ。わたしたちは何か特別な時を待つべきではない。そうではなく、今日、わたしたちは自らを神に捧げ、罪の僕となることを拒否しなければならない。あなたは自分が罪を少しづつやめることができると思うのであろうか。ああ、憎むべきものをただちに捨てなさい。キリストが憎まれたものを憎み、キリストが愛されたものを愛しなさい。このお方はご自分の死と苦しみによって、あなたを罪から清めるために備えをなされたのではなかったか。」(同上 327)

「改革を伴わない悔い改めは、真正なものではない。キリストの義は、告白されてもいなければ捨てられてもいない罪をおおう外衣ではない。それは品性を一変し、行為を規制する生活原則である。清潔とは神のために完全になることである。それは内住する天の原則に対して心と生活をまったく屈服させることである。」(各時代の希望中巻 377)

「[エレミヤ 29:13 引用]。わたしたちは心全体をささげて神に従わねばならない。さもなければ、わたしたちを神のみかたちに回復する変化は起らない。……自己との戦いは最も大きな戦いである。自己に打ち勝ち、神のみ心に全く従うには戦いを通らねばならない。しかし神に服従しなければ、魂が聖化されることはできないのである。」(キリストへの道 53, 54)

5. 従順—努力する

- a. どの条件が天への肩書ですか。神の律法を無視する人々は、どの権利を失うのですか (エレミヤ 23:6; 33:16; マタイ 5:48)。

「〔神〕は、かつて同様今も、天への唯一の肩書として、完全な義を要求しておられる。キリストがわたしたちの希望であり、わたしたちの避け所であられる。このお方の義は、従順な者にのみ着せられる。御父がわたしたちのうちに何の罪も見出されないように、それを信仰によって受け入れようではないか。しかし聖なる律法を踏みじって来た人々には、その義をわがものと主張する権利はない。」(ハイブル・コメンタリ [E. G. ホイトコメント] 6 巻 1072)

- b. 改心した魂に何が要求されていますか。そしてその人はどの助けを期待できますか。その人はだれと協力して働きますか (ピリピ 2:12 (下句))。

「神の恵みを受ける者の側で努力と働きが要求されている。なぜなら、それは木の性質を表す実だからである。人の良い行いはイエスを信じる信仰がなければ、カインの捧げものとまったく同様に価値がないが、キリストの功績に覆われるとき、それらはそれをなす人に永遠の命を受け継ぐ価値があることを証する。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 381, 382)

「罪人は、自分のためになされる働きと調和して努力を払わなければならない。そして不屈の嘆願をもって、神の回復する力が自分の魂のうちにもたらされるように恵みの御座に請わなければならない。キリストは悔い改めた者以外はお許しにならないが、このお方はお許しになる者をまず悔い改めさせる。」(同上 393, 394)

個人的な復習問題

1. 必要なのはただ信じることだという人々に、どのような答えが与えられますか。
2. 何が罪人を悔い改めへ導きますか。
3. 魂が改心へと導かれているときに、信仰を働かせることによって、どのような役割が果たされますか。
4. 各々二つの側が共に働くことによって、どのような役割が果たされますか。
5. 何が真の信徒たちを勝利者とすることが出来ますか。

聖化

「従順な子供として、無知であった時代の欲情に従わず、むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、『わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである』と書いてあるからである。」(ペテロ第一 1:14-16)

「聖でないものから、聖なるものへの変化の働きは、継続的な働きである。日ごとに神は人の聖化のために労して下さる。そして、人は正しい習慣を培うことにおいて辛抱強い努力を払うことによって、このお方に協力しなければならない。」(ビュー・アンド・ワールド 1906 年 3 月 15 日)

推奨文献：患難から栄光へ下巻 260-270

日曜日

3月17日

1. 神の民は聖なる者でなければならない
 - a. 神のどの特徴が天に行き渡っており、み前に出ることを望むすべての者のうちになくはなりませんか (ペテロ第一 1:14-16)。

「神の義は絶対的である。この義がこのお方のすべてのわざ、このお方のすべての律法の特徴となっている。神があられるとおりに、このお方の民もあらねばならない。キリストの命がこのお方に従う人々の生活の中に表されなければならない。公であっても個人的であってもこのお方のすべての行動、すべての言葉や行いには、実際の信心が見られた。そしてこの信心はこのお方の弟子たちの生活にも見られるのである。」(セレクテッド・メッセージ 1 巻 198)

「〔神〕は、罪の存在に耐えることがおできにならない。それはこのお方の魂が憎まれるものである。……聖潔は、神の御座の基礎である。罪は聖潔の反対である。罪は神の御子を十字架につけた。もし罪がいかに憎むべきものであるかを見ることができれば、それに耐えることも、罪のうちにいるよう自らを教育することもしないはずである。彼らは生活と品性において改革するはずである。秘かな過ちは克服されるはずである。もしあなたが天において聖徒となるのであれば、まずこの地上で聖徒とならなければならない。」(牧師への証 145)

- b. 初めから、何が人類に対する神のご目的でしたか。聖書はわたしたちに対する神のみ旨について、何と教えていますか (エペソ 1:4; テサロニケ第一 4:3)。

2. 着せられ、また与えられた義

- a. 聖化は一瞬の働きではなく、漸進的な働きであることを何が示していますか。この目標に到達するために、どのような段階があげられていますか（ヘブル 6:1; ピリピ 3:13, 14; ペテロ第二 1:5-10）。

「聖書は、清めの働きが、漸進的なものであることをはっきりと示している。罪人が悔い改めて、贖罪の血によって神と和解するとき、キリスト者の生活ははじめたばかりである。彼は、『完全を目標として進』み、『キリストの満ちみちた徳の高さにまで』成長しなければならぬ。使徒パウロは言っている。『ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目標として走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである』（ピリピ 3:13, 14）。ペテロは、聖書が教える清めへと到達するための段階を、われわれに提示している。『それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を……加えなさい』（ペテロ第二 1:5, 6）。』（各時代の争闘下巻 198）

「わたしたち自身の救いのために働くべき方法は、ペテロ第二の手紙の第一章にはっきりと述べられている。絶えず、わたしたちは恵みに恵みを加えなければならない。こうするとき、神はわたしたちのために掛け算で働いて下さる。」（ビュー・アド・ワード 1906年3月15日）

- b. キリストの死によってわたしたちのために何がなされましたか。またキリストが宿っておられる人々の日々を経験はどのようなものとなりますか（ローマ 5:10）。

「わたしたちが義認される義は着せられ、聖化される義は与えられる。第一はわたしたちの天への肩書であり、第二はわたしたちの天への適性である。」（同上 1895年6月4日）

「義認とは魂を永遠の滅びから救うことを意味する。それは彼が聖化を、そして聖化を通して天の命を得ることができるときである。義認とは死んだわざから清められた良心が聖化の祝福を受けることのできるころへ置かれることを意味する。」（パイブル・コメンタリ [E. G. 初作コメン] 7巻 908）

「〔多くの人々〕は自分たちのすべての信仰と希望の基盤が、ただわたしたちの保証人であられるイエスの完全さであるべきことを悟っていない。唯一の本物の救う信仰は、キリストの着せられた義をつかむ信仰である。このお方が唯一の徳の源、霊的な力と命の源であられる。……この信仰の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意であり、そして〔この信仰をもっている教会員の〕目的は日々神に栄光を帰すこととなる。」（原稿リ-5 巻 9）

3. 聖化の働き

- a. わたしたちがキリストの義を着せていただきますが、一方聖化の働きはどのように徹底的に実行されるべきですか。また何のためですか(テサロニケ第一 5:23)。

「わたしたちの聖化は、御父、御子、そして聖霊の働きである。それは自らを神に結びつけ、聖なる交わりのうちに神と御子と御霊と共に立つ人々と神が結ばれた契約の遂行である。あなたは新たに生まれたであろうか。あなたはキリスト・イエスにある新しい存在になったであろうか。そうであれば、あなたのために働いておられる天の偉大なお三方に協力しなさい。」(パイブル・コメンタリ [E. G. 叔トコメント] 7巻 908)

「聖霊の働き、すなわち真理の聖化を通して、信徒は天の宮にふさわしいものとされる。なぜなら、キリストがわたしたちのうちに働かれ、このお方の義がわたしたちの上にあるからである。これなしには、一人の魂も天への資格を得ることはない。わたしたちは聖霊の感化とキリストの義によってその聖なる雰囲気にもふさわしいものとされないかぎり、天国を楽しむことはない。」(ヘクテッド・メッセジ 1巻 395)

- b. どのようにしてこの働きは成し遂げられますか。罪人はその中でどのような役割を果たしますか(テトス 3:5)。

「魂がキリストに屈服するとき、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす。」(各時代の希望中巻 41)

「キリストがすべてであるが、わたしたちはすべての人に不屈の勤勉さを鼓舞すべきである。わたしたちは、狡猾な敵に打ち負かされることがないように、奮闘し、格闘し、身を悩ませ、見張り、祈らなければならない。これをなすことのできる力と恵みは神から来る。そしてその間ずっとわたしたちは、ご自分によって神の許へ来るすべての人を最高にまで救うことのおできになるこのお方に信頼するのである。

勝利するという偉大な働きにおいて、人にはほとんど、あるいは何もすることができないという考えを提示してはならない。むしろ、勝利することにおいて成功するために、神と協力するべきことを人に教えなさい。」(ヘクテッド・メッセジ 1巻 381)

4. 聖書の聖化

a. 聖書の聖化は何ですか。それは何を含んでいますか (テサロニケ第一 3:13)。

「神の言葉と聖霊によって、神の律法の中に現われている義の大原則が、人間に示される。そして、神の律法は、『聖であって、正しく、かつ善なるものであり、神の完全の写しであるから、その律法に従って形造られる品性も、清いものとなる。キリストは、このような品性の完全な模範である。『わたし(は) わたしの父のいましめを守った。』『わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしている』と主は言われる (ヨハネ 15:10;8:29)。キリストの弟子たちは、彼のようにならなければならない。神の恵みによって、神の聖なる律法の原則に調和した品性を形成しなければならない。これが聖書のいう清めである。』(各時代の争闘下巻 197)

「聖書に示されている清めとは、全存在一霊と魂と体一を含むものである。」(同上 202)

b. 真に改心した信徒の経験はどのようなものとなりますか。そのような信徒は悔い改めの召しに応えるとき、何をなしたのですか (コリント第一 15:57; โรม 6:1-4, 12, 13)。

「キリスト者も罪の誘惑は感じるが、しかし常にそれと戦い続ける。ここにおいて、キリストの援助が必要になる。人間の弱さが神の力と結合する。そして信仰は、『感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである』と叫ぶのである。」(コリント第一 15:57) (同上 198)

「改革を伴わない悔い改めは、真正なものではない。キリストの義は、告白されていなければ捨てられてもいない罪をおおう外衣ではない。それは品性を一変し、行為を規制する生活原則である。清潔とは神のために完全になることである。それは内住する天の原則に対して心と生活をまったく屈服させることである。」(各時代の希望中巻 377)

「神の事柄において日ごとの経験を持ち、快活に十字架を担いキリストに従うことによって日ごとに自己否定を実践するのではない限り、だれ一人生きたクリスチャンではない。すべての生きたクリスチャンは神聖な生活において日ごとに前進する。彼が完全に向かって前進するとき、毎日神への改心を経験する。そしてこの改心は彼がクリスチャン品性の完全、すなわち不死の仕上げの一触のために完全な準備に至るまで完成しない。」(教会への証 2 巻 505)

5. 聖化の証拠

- a. 聖化の働きがなしとげられる心の経験はどのようなものですか。そのような人々の特別な喜びは何ですか（詩篇 119:14-16）。

「すべての真の服従は心から生れる。キリストにとってはそれは心の働きであった。もしわれわれが承知するなら、キリストはわれわれの思いやころごしと一体となり、われわれの心と思いとを一つにしてご自分のみこころに一致させてくださるので、キリストに従うときに、われわれは自分自身の衝動を実行しているにすぎない。意志は洗練され、きよめられて、主のご用をなすことに最高のよろこびをみいだす。神を知ることはわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることはない服従の生活となる。キリストのご品性の真価を認めることによって、神とまじわることによって、罪はわれわれにとって憎むべきものとなる。」（各時代の希望下巻 150）

- b. 真の聖化の証拠は何ですか（ミカ 6:8）。どのようにして悔い改めた罪人は道を知りますか（ヨハネ第一 2:3-6；ペテロ第二 2:21, 22）。

「公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むこと、これが心と生活の真の聖化の間違いない証拠である。」（サインズ・オブ・タイムズ 1900年9月19日）

「内にある義は、外にある義によって証される。内が義なる人は思いやりや同情心のない者ではなく、日々キリストのみかたちに成長し、力から力へ進む。真理によって聖化されている人は自制心があり、恵みが栄光のうちにかくされるまでキリストの足跡に従うのである。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1895年6月4日）

個人的な復習問題

1. 聖なるものとなるというのは、どういう意味ですか。
2. 着せられる義と与えられる義の違いを述べなさい。
3. 聖化の働きはどのように成し遂げられますか。
4. 真の聖化からどのような結果がもたらされますか。
5. 魂が聖化されている証拠は何ですか。

キリストの義に覆われる

「王は客を迎えようとしてはいつてきたが、そこに礼服をつけていないひとりの人を見て、彼に言った、『友よ、どうしてあなたは礼服をつけないで、ここにはいつてきたのですか』。しかし、彼は黙っていた。」(マタイ 22:11, 12)

「あなたは天の織機でおられた衣、すなわちキリストの栄光に満ちた義でいま自らを覆わなければならない。それはあなたがこのお方の出現のときに立つ準備ができ、このお方の右側の場所にふさわしいことが見出されるためである。」(サイン・オブ・タイムズ 1892年3月28日)

推奨文献：キリストの実物教訓 287-298

日曜日

3月24日

1. 提供されたキリストの義

a. いつ魂はキリストの義の衣で覆われる準備ができますか (ゼカリヤ 3:1-4)。

「人が自分自身の無価値さを見るとき、彼らはキリストの義の衣で覆われる準備ができる。」(信仰によってわたしは生きる 111)

「大祭司〔ヨシュア〕は、サタンの告発から自分自身も民も守ることができない。彼はイスラエルに過ちがないとは主張しないのである。民の代表として彼が担っている民の罪を象徴している汚れた衣を着て、彼は自分の罪を告白しながらも、彼らの悔い改めとへりくだりを指し示し、罪を許される贖い主の憐れみにより頼み、信仰のうちに神のみ約束を主張して、御使の前に立つ。」(教会への証 5巻 468, 469)

b. 聖化の必須条件は何ですか (使徒行伝 3:19)。

「わたしたちが悔いた魂をもってキリストの許しを求めてこのお方のみ許に来るとき、わたしたちの罪を取り除くのはキリストの清めの血である。このお方はご自分の義を着せて下さる。罪をご自分の身に引き受けて下さる。」(ハイグル・コメント [E. G. ホワイトメント] 7巻 935)

2. キリストの義の代価

- a. キリストの義を買うために、わたしたちは何をしなければなりませんか。どの譬が、キリストを告白することとお方に従うことが必ずしも魂がキリストの義の衣で覆われていることを意味しないことを指摘していますか（マタイ 13:45, 46; 22:1-14）。

「福音の婚宴に集まる客は神に仕えることを表明する者、その名がいのちの書に書かれている者である。しかしクリスチャンであると告白する者がすべてほんとうの弟子なのではない。」（キリストの実物教訓 289, 290）

「名前が教会名簿に載っている多くの人々の生活に本物の変化がない。真理は宮の外に閉め出されている。本物の改心も、心のうちになされる恵みの積極的な働きもない。神のみ旨を行うという彼らの願いは、聖霊の深い確信よりは、自分自身の傾向に基づいている。彼らの行いは神の律法と調和していない。彼らは自分の救い主としてキリストを受け入れると告白するが、このお方は自分たちの罪に打ち勝つ力を与えて下さることを信じない。彼らは生ける救い主を個人的に親しく知っておらず、彼らの品性は多くの傷をあらわにしている。」（ビュー・アンド・ヘルド 1904年7月7日）

- b. どのようにしてのみ、わたしたちは義を買うことができますか（黙示録 3:18）。

「白い衣は品性の純潔さ、罪人に与えられるキリストの義である。これは実に天の織物であり、自発的な従順の生涯のために、ただキリストから買うことのできるものである。」（教会への証 4巻 88）

「純白の真珠としてのキリストの義には、傷もしみも罪もない。この義がわたしたちのものとなることができる。血で買われた、はかり知れない宝である救いは高価な真珠である。それは探して見出すことができる。しかし、本当にそれを見出す人は、それを買うために自分の持っているものをすべて売るのである。彼らはキリストが御父と一つであられるように、自分たちがキリストと一つであるという証拠を示す。譬の中で、商人は高価な一つの真珠を得るために自分の持っているものをすべて売る者として表されている。これは真理を非常に高く評価して、それを所有するためには、自分の持っているものをすべて捨てる人々の美しい描写である。彼らは神のひとり子の犠牲によって、自分たちのために備えられた救いを信仰によってつかむのである。」（セレクトド・メッセージ 1巻 399）

3. 純潔という衣

- a. 最初の父祖はエデンでどの衣をもっていましたか。彼らの霊的な状態が変化したとき、何が起こりましたか。彼らは何を見出しましたか（創世記 3:10）。

「神が人類を最初に聖なるエデンに置かれたとき、彼らが着ていたのは純潔という白い衣であった。彼らは神のみこころに完全に一致した生活を送った。彼らの深い愛情はことごとく天の父にささげられた。美しく柔かい光—神の光が一罪を知らぬアダムとエバを包んだ。この光の衣は、天与の純潔という霊的な着衣の象徴であった。もし彼らがずっと神に真実を尽くしていたら、彼らはいつまでもその光に包まれていたはずであった。しかし罪が侵入したとき神とのつながりは断たれ、それまで彼らを取り囲んでいた光は消え去った。彼らは裸となった自分の身を恥じて、いちじくの葉をぬい合わせておおいを作り、それを天の衣の代わりにしようとした。」（キリストの実物教訓 290, 291）

- b. いま、白い衣は何を表しますか。キリストの義の衣で覆われている人々の霊的な状態と品性はどのようなものですか（黙示録 19:8）。

「〔婚宴の〕たとえの中の礼服は、キリストの真の弟子が持つ清くてしみのない品性をあらわしている。」（同上 290）

「真理は心に植えつけられなければならない。それが思いを支配し、愛情を調整しなければならない。品性全体に神聖な言葉をもって印されなければならない。神のみ言葉の一点一画が、日常茶飯事に持ち込まれなければならない。

神聖にあずかるようになる人は神の偉大な義の標準、すなわちこのお方の聖なる律法と調和するようになる。これが神が人の行動を測られる規則である。これが裁きの日に品性の試金石となる。」（同上 293）

「しかし神が義であられながら、なおキリストの功績を通して罪人を義と認めることがおできになる一方で、罪人は知っている罪を犯したり、知っている義務をなおざりにしていながらキリストの義の衣で自分の魂を覆うことはできない。神は義認をなし得る前に心の完全な明け渡しを要求しておられる。そして彼が義認を維持するためには、愛によって働き、魂を清める活動する生きた信仰を通して、継続的な従順がなければならない。」（レクテッド・メッセージ 1 巻 366）

4. キリストの義を受けるために

- a. キリストのぶどうの木の実例に従って、このお方の義はいつわたしたちに着せられますか。キリストとの真の結合のために何が要求されていますか(ヨハネ 15:4, 5)。

「見せかけの結合と信仰によるキリストとの本当のつながりの間には、大変な相違がある。真理の告白によって人は教会におかれるが、これが生けるぶどうの木と生きたつながりをもっている証拠にはならない。……この緊密なつながりと交わりが形成されたら、わたしたちの罪はキリストの上におかれ、このお方の義はわたしたちに着せられる。」(教会への証 5 巻 228, 229)

「生きた信仰によるキリストとの結合は永続的なものである。他のすべての結合は消滅しなければならない。……内外の障害との苦闘があるであろう。付着の働きと同様に痛みを伴う分離の働きがなければならない。誇り、利己心、虚無、世俗—あらゆる形態の罪—は、もしキリストとの結合に入りたいのであれば克服しなければならない。多くの人がクリスチャン生活をこのように嘆かわしいほど困難なものであることを見出す理由、すなわち、彼らがこれほど移ろいやすく、定着しない理由は、彼らがまず自らをこれらの大事にしている偶像から離すことなしに、キリストと結びつこうとするからである。」(同上 231)

- b. わたしたちがキリストの義の衣で覆われている証拠は何ですか(詩篇 119:104; コリント第一 13:6)。

「わたしたちがキリストの義で覆われているとき、罪に対する興味がなくなる。なぜなら、キリストがわたしたちと共に働いておられるからである。わたしたちは間違いを犯すかもしれないが、罪を神の御子の苦しみの原因として憎むのである。」(レクゲッド・メッセージ 1 巻 360)

- c. サタンの誘惑に直面するとき、キリストの義の衣で覆われている魂のための安全は何ですか(ペテロ第一 1:5)。

「キリストの宗教には、存在全体を変える再生の感化力があり、品位を落とさせ、はいずり回る悪に超越させ、神と天へ向かう思想と願望を起こさせる。無限のお方と結びついて、人は神性にあずかる者とされる。彼には悪の矢も威力がない。なぜなら、彼はキリストの義という武具に覆われているからである。」(両親・教師・生徒たちへの勧告 51, 52)

5. 内においてキリストと共に生きる

- a. パウロはガラテヤの人々に、わたしたちの必要なキリストとの密接な関係をどのように説明しましたか (ガラテヤ 2:20)。

「人が自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つになり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたしたちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである。」(キリストの実物教訓 292)

- b. 聖化された人々はこの世においてさえ、どのような祝福を楽しみますか (イザヤ 58:8)。

「キリストに忠実に従った人びとにとって、キリストは日ごとの伴侶、親しい友であった。彼らは、神との密接な接触、絶えざる交わりを保ってきた。彼らの上に、主の栄光がのぼった。イエス・キリストのみ顔にあらわれた神の栄光の知識の光が、彼らの中に反映したのである。今彼らは、荘厳な王の大いなる輝きと栄光に浴して喜ぶのである。彼らは、心に天を持っているから、天との交わりに入る準備ができているのである。」(同上 397)

個人的な復習問題

1. 信徒は白い衣で覆われることができる前に、まず何をしなければなりませんか。
2. 義の衣を買うための代価について何と教えられていますか。
3. 白い衣の重要性は何ですか。
4. キリストの義を信徒にとっての安全とするものは何ですか。
5. 心のうちでキリストと共に生きる結果は何ですか。

第一安息日献金

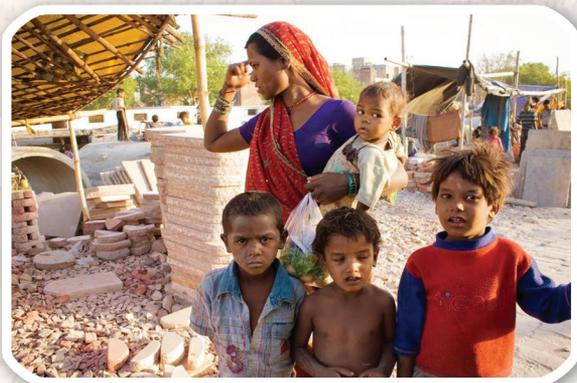


1月5日

ブラジルのベレンの会議場の
ために
(4 ページ参照)

2月2日

世界災害救済金のために
(25 ページ参照)



3月2日

ロシアのサンクト・ペテルブルク
のために
(46 ページ参照)